

渡江



目次

澁江14号の刊行によせて……………

理事長 藤田敬三…2

就職・教育の機会均等と本学……………

学長 玉置 保…3

33年のご協力に感謝……………

名誉会長 渡辺達好…

新会長としてのご挨拶……………

会長 世良錬次…4

大阪経済大学学園だより

本館増改築工事が竣工……………5

同窓会本部だより

世良新会長が誕生……………6

同窓会支部だより

支部活動ますます充実……………8

東京支部・東海支部・京都支部・神戸支部・
姫路支部・広島支部・山口支部・高知支部・
北九州支部・福井支部・富山支部・西宮支
部・大阪市役所支部・岐阜支部・東播磨支
部・有志の集い・12回同期会
姫路支部総会に出席して……………10

副会長 磯野 育…10

ゼミ短信……………14

井上ゼミ・清寿会・上岡ゼミ・喜田ゼミ・
倉辻ゼミ・倉春会・鯉田ゼミ・滝内ゼミ・
竹林ゼミ・玉井ゼミ・松原和ゼミ・松原保ゼミ
アラスカ・マッキンレー峰遠征によせて
……………山岳部…16

トピック・短信……………17

就職懇談会に見る母校愛 ……18

スポーツ・短信……………19

北から南から……………20

同窓会短信集・50編

新聞記者33年……………10回 加藤正秋…23

北欧（スウェーデン）見て歩き
……………27回…小西幸雄…24

編集後記……………27

澁江十四号の刊行によせて

理事長 藤田敬三

近年にない猛暑でしたが、同窓諸兄には益々御健勝にて御活躍のことと御慶び申し上げます。

さて澁江十四号の発刊も迫りましたので、この機を御借して学園の近況を御報告少々御挨拶させていただきます。

一昨年の図書館研究室等の増改築によって、教学、研究面における当面の不備は解消することが出来ましたが、これらに対応する事務部面での欠陥は、学園紛争前後から殆んど顧みる余裕もなく今日に至り居り、更に近年の経済社会情勢の変動に伴う応急施設の要請も加わり居り、これらへの対策として今春来本館の増改築、とりわけ就職部事務室、医務室の拡充を初め、事務系統の整備、教室研究室の補充等の構築に従事中の処、去る九月一日その作業を終了、同窓会渡辺名誉会長、森後援会長を初め関係各方面の御臨席を得て竣工式を挙行政致しましたこと

は御同慶の至でした。勿論本学施設の充実がこれを以て一段落とはいいい難く、ある種の施設、特に冷房等については一層充実を急ぐべきものがあり、引続き検討中であります。更に学園ビジョンに関するコンセンサスの確立をまっけて、現代大学の真使命達成に邁進できる態勢の樹立を急ぐ等の問題を抱えて居り、決して晏如としては居られない学園の昨今であります。

時あたかも創立五十周年もいよいよ数年後に迫り、各種企画の具体化の機も追々熟しつつある折柄、同窓各位の絶大な御支援を得て画期的に有意義な記念事業の目標設定に到達し度いと念じておりますので、何分宜敷く御協力願ひ度いと存じます。

尚申しおくれましたが、昨年来実施の同窓諸氏の御協力による就職懇談会は、本年度は、四国方面の同窓諸氏を煩わし、高松市に懇談会を持ち、多大の成果を収めました。今後共同窓各位の格別の御声援を懇請する次第であります。

末筆乍ら皆様の御健勝と御活躍を心から祈り上げ、御挨拶と致します。

憲法第二十二條第一項は、自由権的基本的人権として、国民が自己の欲する職場に自由につきうる権利、すなわち職業選択の自由を保障しています。しかし高等教育をうければうけるほど、この職業選択の自由の場は、せまめられ、大卒者は、国公・私立大学相互間の格差により、著しく限定されています。官尊民卑という非民主的観念、私立は国立の補充物という固定観念、私大相互間では歴史・伝統等に対する企業の過大評価にもとづき、新設の私大ほど就職に関する企業の門戸は、堅く閉ざれているのが現状であります。本学は幸い昭和商高以来の歴史・伝統があり、真理の探究と、その実践に耐えうる人間の形成とを究極の目標とする自由と融和の学園であることを理念とする特色が、歴代の学長・理事長をはじめ教職員努力や同窓会・後援会のご援助により、企業にも認められ、毎年就職率は九十数%に達し、他の新設の大学に比して比較的恵まれていると思ひますが、学生諸君が将来就職を希望する百貨店などで、二、三年忠実にアルバイトとして働いても、指定校でないからとの理由で、入社試験も受けられない実情を聞きますと義憤を感じざるをえません。

現在の経済不況下では、就職率何%ということ、クローズアップされていますが、私は量もさることながら、質により重点をおくべきではないかと思ひます。この門戸解放の問題は、元来自由権に関わる問題ですから、政府の政策によるべきでなく、私学自体が自らの力で開拓すべき問題であります。待望の就職部の施設の整備・拡充も去る九月一日完成しました。今後学生諸君の希望する企業に、一人でも多く就職できるように就職部を中心に、ますます努力するつもりでございます。

今年も昨年に引続いて、六月十日本学において京阪神地区、同十八日高松において四国地区の同窓生各位と就職懇談会を開催し、先輩として大学に望むこと、あるべき学生像、会社の現状と採用の動向、就職援助について大学側への希望および就職部に対する要望とアドバイスなどについて貴重なご意見を拝聴しました。厚く御礼申し上げます。今後なお一層のご援助をお願い申し上げます。

さて同窓生各位の雇われる企業やその他で門戸が開放されますと、次は自由競争の就職市場における学生諸君の能力の問題になってきます。私立大学にはそれぞれ建学精神、特色があり、それを求めて、国立大学入学の能力があら

就職・教育の機会均等と本学

学長 玉置 保

がら入学してくる者は少くありません。しかし入学しますと国立と私立では、学生一人当たり教育経費が私立は国立の三分の一以下であることが端的に示しますように、教育・研究条件に雲泥の差があります。憲法第二十六條は、社会的的人権として、能力に応じてひとしく教育をうける権利。すなわち教育の機会均等の原則を定めています。これは、社会権ですから、政府は積極的な文教政策を打ち出し、世論に應えねばならないと思ひます。憲法第二十六條から、国立と私立に能力差による格差を設けてもよいとの解釈はでてこないと思ひます。

高校から大学への進学率が四割近くになり、全大学生のうち、私学に学ぶ者が八割に近く、大学が国民教育の場になりつつある現在、私学はわが国の教育・研究の中核的な重要な地位を占めています。しかしスタグフレーションに続く円高の経済不況の中で、私学の財政危機は去らず、学費収入のみで、劣悪な教育・研究条件から脱することは不可能であります。政府は国庫助成に關し、既に実質経常経費総額二分の一補助を謳いながら、未だそれに程遠いのが現状であり、憲法が保障する教育の機会均等、教育を受くべき権利は侵害されつつあるともいえます。

本学は幸い地味で良心的な経営という建学精神が受けつがれていたので、このような財政難にかかわらず、一昨年は図書館の増改築、本年は教室、就職部、医務室および研究室などの整備・拡充工事を完成することができました。関係各位に感謝する次第であります。

教職員は、能力において国公立に劣らない学生育成のために、国庫助成に關する全国私立大学教授会連合その他の団体に属し、所期の目的の達成に運動を展開しています。政府は政治責任を痛感し、その要請に應えることをこい願うものであります。私は微力ながら、本学の学生諸君が教育と就職の機会均等に恵まれ、各々のところをえて、二十一世紀につながる社会において指導的役割を果す人物になるよう教育に努力したいと考えています。

澁江十四号発刊を心より喜び申し上げますとともに、同窓会の一層のご発展および会員各位のご自愛・ご健勝そしてご活躍を祈念致しましてご挨拶を致します。

昭和五十二年十月一日

11月3日同窓会総会 於レストランパレス (大阪市北区梅田1丁目12-39) 11時から立食パーティー (新阪急ビル 12階)

—新卒者大歓迎、会費も半額です—



三十三年のご協力に感謝

同窓会名誉会長 渡辺 達好

全国各地で御活躍中の同窓会々員の皆さん、如何御過してでしょうか。母校卒業生は昭和十年の第一回卒業生から数えて本年の三月には第四十四回の卒業生が母校を巣立ち、各種の分野で活躍されている訳であります。卒業生の数は正に三万三千名余の多きに達しました。しかし此の四十四年の間には戦争という悲惨な出来事や、不幸病魔にたおれ、また不慮の事故等で今は亡き卒業生の数も多いわけですが、これ等の皆さんの霊に対して謹んで御冥福を御祈りする次第で御座居ます。さて本年もまた年に一度の同窓会誌「澁江」発行の期となりましたが、これこそ、同窓会として唯一の同窓生への連絡誌と云える有りがたいものですが、どうか其の中に記載された御報らせや、学校の近況記事を御覧願ひ、在学当時のこと等を想い起して下さい。さて、私事になりますが、私は昭和十二年卒業の第三回卒業生であり、卒業以来同窓会の常

任役員として色々と御世話になり今日に至っておりますが、ふり返って見ますと丁度昭和二十年の戦争終結の際、第一回卒業生の市原卓爾さんが（昭和十年卒業以来同窓会理事長として御盡瘁になつておられました）たまたま終戦を期に郷里千葉県に御帰りになられた関係から理事長を辞任されたので、ためにそれ以来皆さんの御推挙により私が今日迄三十三年間同窓会理事長の重職をけがして来た次第で御座居ます。其の間大学にも、同窓会にも幾多の困難な問題が起つたではありませんが、同窓生役員や皆さんの御力添えにより、どうにか今日迄其の職をつとめて参りましたが、今同窓会のある所あり、卒業以来私同様大学を思い、同窓会のために私を助けてきていただいた同期生で大阪日産自動車株式会社の世良錬次社長に私に変わって新会則による同窓会会長をやつてもらふことに相成りました。勿論、私が此の職に堪えられないと云う理由もな



新会長としてのご挨拶

同窓会会長 世良 錬次

母校はあと数年すると創立五十周年を迎えることとなります。同窓会も同じく五十年の歴史を重ねることになる訳であります。去る六月二十四日の理事会におきまして、会則の一部が改正され、名誉会長制が設けられ、理事長―常任理事―理事制を、新しく会長―副会長―常任理事―理事制に変更

され運営されることになりました。五十年の歴史を重ね、卒業生も三万三千名を数え、激しく変化する世情の中で中広い層に対応するためであります。その大変重要な時期に、不肖私、会長に推され諸先輩も多くおられることでもありますが、諸般の事情から、お引き受けいた

した次第でございます。もとより、非力でございますので、広田、磯野両副会長のご助力をいただき、更に、会員皆様のご支援を得て運営に当たりたいと思っております。よろしくお願い致します。初代理事長市原先輩は、同窓会の結成から戦時中の混乱時代の維持運営にご苦勞されました。また、終戦後から今日まで三十余年間にわたり、新制大学として拡充して行く母校と同窓会との間で、常に二貫して融和と調和を保ちながら今日の発展に盡された渡辺理事長の功績は大きく敬服の他ありません。卒業生先輩の最年長の方は、既に七十才近くになられ、昨今の新しく入会さ

れる卒業生との間は親子以上の開きがあります。同窓会は古い人、新しい人が共に楽しく話し合えることの出来る場でない限りなりません。しかし、時代は激しく変わりつ

つありますし、また会員の考え方、思想も中広い訳であります。同窓会は本来の目的の上に、会員各階層への中広いサービスがなければいけないでしょう。これは大変む

つかしいことではあります。皆さんの積極的なご参加をいただき運営したいと思っております。よろしくお願い致します。就任にあたりご挨拶申し上げます。

大阪経済大学学園だより

本館増改築工事が竣工

今回大学では本館の増改築が行われた。それにとともに、同窓会ホールも新築部分の四階へ移転、その他一階に医務室、二階に経理、三階に広報と入試が入った。又この工事により研究室が大幅に増え、研究活動に便宜がはかれる事となった。

学内行事

五十三年 4月7日 入学式

4月10日 前期講義開始
 7月2日 故経済学博士 菅野和太郎先生三周年忌 講義打ち切
 7月10日 講義打ち切
 7月11日～9月9日 夏期休業

8月29日 故経済学博士 黒正巖先生三十年祭 (於岡山)
 9月11日 講義再開
 9月22日～29日 前期試験

学内人事

五十三年九月現在 学長 玉置 保教授

| | |
|--------|--------------|
| 9月30日 | 本大学創立記念日 |
| 10月2日 | 後期講義開始 |
| 12月20日 | 講義打ち切 |
| 12月21日 | 54年1月6日 冬期休業 |
| 五十四年 | |
| 1月8日 | 講義再開 |
| 1月17日 | 講義終了 |
| 1月19日 | 学年末試験 |
| 2月10日 | |
| 2月17日 | |
| 2月18日 | 入学試験 |
| 3月19日 | 卒業式 |

54年度入試要項

1. 学部・学科・入学定員

| 学部 | 学科 | 入学定員 |
|---------------|------|------|
| 経済学部第1部 (昼間部) | 経済学科 | 400名 |
| 経営学部第1部 (昼間部) | 経営学科 | 400名 |
| 経済学部第2部 (夜間部) | 経済学科 | 100名 |
| 経営学部第2部 (夜間部) | 経営学科 | 100名 |

2. 試験日・科目・時間・配点および試験地

| 試験日 | 教科 | 科目 | 時間 | 配点 | 試験地 |
|-----------------------|------------|-----------------------------------|---------------------|------------|--------------------|
| 経済学部 (1・2部) 2月17日 (土) | 外国語 | 英語 B | 9:30 ~ 10:40 (70分) | 150点 | 大阪路 高松島 高広福 岡沢 名古屋 |
| | | 現代国語 古典1乙 | 11:20 ~ 12:30 (70分) | 150点 | |
| 経営学部 (1・2部) 2月18日 (日) | 選択科目 (1科目) | 政治・経済・世界史・地理A・簿記・簿記I・工業計算 (簿記を除く) | 13:50 ~ 15:00 (70分) | 150点 計450点 | |

3. 出願手続・合格発表

- ① 入学案内書 (願書) 11月上旬発売 千共700円
- ② 検定料 15,000円
- ③ 出願期間 1月22日(月)～2月8日(木)必着 郵送に限る。
- ④ 合格発表 2月28日(水) 午後2時

4. 第2志望合格許可制度の廃止について

従来、本学では第1部志願者が、出願時に所定の手続をしておけば、第1部が不合格になった場合、一定の基準点に達していれば、同一学部第2部に合格を許可する制度がありました。昭和54年度からこの制度を廃止いたします。

| | | | | | |
|-------|---------|--------------|----------|----------|------------------|
| 経済学部長 | 浜田 幸策教授 | 経理部長 | 内田 三良 | 体育館事務室 | 沖 晴美 |
| 経営学部長 | 千葉 勇夫教授 | 五十二年四月一日付新採用 | | 総務部庶務課 | 小西 佳子 |
| 教養部長 | 成瀬 洋教授 | 経済学部 | 講師 本多 三郎 | 日本経済史研究所 | 佐々木 繁 |
| 図書館長 | 岡本 正教授 | 経済学部 | (外国書講読) | 昇格 | |
| 学生部長 | 岡本 昌夫教授 | 教養部 | 助手 福井 孝明 | 教養部 | 教授 香川 一夫 |
| 教務部長 | 松原和夫助教授 | 教養部 | (体育実技) | 経営学部 | 教授 (4月1日付) 西口 俊子 |
| 広報部長 | 浜本 泰教授 | 教養部 | 助手 佐々野卓実 | 経営学部 | 教授 (6月1日付) 門坂 正人 |
| 就職部長 | 竹林 祐吉教授 | 教養部 | (仏語) | 教授 | 名譽教授称号授与 |
| 体育館長 | 浅沼 玄恵教授 | 総務部人事課 | 小田川知子 | 教授 | 菊田 太郎 |
| 総務部長 | 玉岡 浩 | | | 教授 | 信垣 直一 |
| | | | | 教授 | (6月16日付) 松尾 竹彦 |
| | | | | 教授 | (6月16日付) 松村 幸一 |
| | | | | 教授 | (7月1日付) 松村 幸一 |

同窓会本部だより

世良新会長が誕生

本年度理事会で会則が改正され、33年の長期にわたり、理事長として同窓会を育て上げられた渡辺さんが名譽会長に推挙され、新たに世良さんが新会長に就任された。両氏は三回卒の同期、スクラムは変わる事なく、同窓会の輝かしい将来へ続いて行く事となった。

もない一同窓生として、恩師を開

み、旧友と肩をたたきあい、ビールのコップを交し合いながら思い出話に花が咲き、盡きるところを知らない……というありさまですが、楽しい会ほど時間の経つのは早いものです。ぼつぼつ夕暮の迫りつつあるキャンパスを、来年の再会を約しながら、一人、また一人と去り五十二年の楽しかった総会の幕は降りました。

最後にこの紙面を借り、ご協力をいただいた同窓生諸兄姉はもちろんのこと、大学の関係各位の皆様にも心からお礼を申し上げます。

昭和五十二年同窓会総会

昭和52年11月3日
於 母校キャンパス

本年も、例年通り、大樟祭の行なわれていて、菊薫る文化の日に同窓会総会が開催されました。図書館前のステージで催されている学生諸君のいろいろの演技、あるいは、もぎ店なども、同窓生には既におなじみのものとなっているようです。

当日は好天に恵まれたためか、同窓生の出席はもう一つというところでしたが、定刻、C四十一号教室において、比企事務局長の開

会宣言により、昭和五十二年同窓会総会が開幕されました。学校より学長、理事長先生をはじめ多数の諸先生方のご来臨を仰ぎ花をそえていただきました。

渡辺同窓会理事長の挨拶に続き、学長玉置保先生、理事長藤田敬三先生よりお祝いのお言葉をいただきました。つづいて遠路ご出席された支部長各位より近況報告があった後、吹奏楽総部の伴奏で、出席者一同、学歌を声高らかに歌いあげて式を閉じました。

引続いて、懇親会場である本館三階へ……

ここでは、年令も、社会的地位

常任理事名簿と分担表

| | | | |
|------|------------|------------|--|
| 名譽会長 | 渡辺 達好 (3) | | |
| 会長 | 世良 鍊次 (3) | 磯野 斉 (3) | |
| 副会長 | 広田 実 (1) | 桑津 昇 (11) | |
| 常任理事 | 萩原 市郎 (10) | | |
| | 玉岡 浩 (12) | | |
| 総務部長 | 小松真佐江 (14) | | |
| 副部長 | 谷口 一郎 (22) | | |
| | 酒井 弘光 (23) | | |
| | 水納 敏也 (25) | | |
| 会計部長 | 陰下 嘉典 (16) | | |
| 副部長 | 平尾 哲男 (28) | | |
| | 大西 健介 (35) | | |
| 編集部長 | 山中 良夫 (19) | 前田 悦子 (13) | |
| 副部長 | 松本 義和 (18) | 稲福 善男 (33) | |
| | 旭 克之 (27) | | |
| 事務局長 | 比企 重 (7) | | |
| 監事 | 山上 善彦 (2) | 三木 薫 (4) | |
| | 中村美智子 (13) | | |

同窓会理事会開催

◇昭和五十三年六月二十四日(土)午後六時

◇ニュー・パレス(新阪急ビル)◇議案

- 第一議案 昭和五十二年度収支決算について
- 第二議案 昭和五十三年年度収支予算案について
- 第三議案 会則一部改正案について
- 第四議案 役員改選について
- 第五議案 その他

答の結果、万場一致で可決。

第四議案 比企事務局長より議長選出方法について提案。「司会者一任」の声とともに拍手で満場一致。

広田(1)理事を議長に指名。広田議長より選考委員選出方法について提案。「議長一任」され広田議長より新常任理事選考委員として

委員長磯野(3)、委員中村(4)日南(7)、前田(13)、小松(14)平尾(28)、大西(35)の七理事が指名され、別室にて慎重審議の結果、磯野選考委員長より新常任理事二十名、新監事三名を発表。全員拍手でこれを承認した。

引続き新常任理事による互選の結果、新会長として世良(3)理事を、同時に、名譽会長渡辺(3)、幅会長広田(1)、磯野(3)、事務局長比企(7)を選出した旨を萩原常任理事より報告。

世良新会長、渡辺新名譽会長の就任挨拶に全員から盛大な拍手。ここに今期新役員の顔ぶれが揃った。

以上をもって議事はとどこおりなく終了し、別室において宇野(1)理事の乾盃の音頭により懇親会に入り、歓談の後、二十時三十分散会した。

昭和52年度収支決算書

自 昭和52年4月1日～至 昭和53年3月31日

| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
|-------|------------|------------|---------|------------|------------|
| 科目 | 決算額 | 予算額 | 科目 | 決算額 | 予算額 |
| 前期繰越金 | 256,153 | 256,153 | 総会費 | 947,430 | 1,000,000 |
| 会費収入 | 10,137,500 | 9,000,000 | 役員会費 | 623,830 | 750,000 |
| 總會収入 | 312,000 | 300,000 | 支部費 | 841,480 | 1,000,000 |
| 名簿収入 | 548,000 | 400,000 | 事務費 | 270,849 | 400,000 |
| 利息収入 | 50,508 | 100,000 | 人件費 | 2,340,060 | 2,400,000 |
| 雑収入 | 316,074 | 0 | 旅費交通費 | 815,380 | 850,000 |
| 借入金 | 1,000,000 | 2,000,000 | 濶江編集費 | 2,547,409 | 2,800,000 |
| | | | 名簿追跡調査費 | 230,240 | 500,000 |
| | | | 学対費 | 1,230,000 | 1,100,000 |
| | | | 慶弔費 | 58,950 | 100,000 |
| | | | 小計 | 9,905,628 | 10,900,000 |
| | | | 支払利息 | 13,561 | 0 |
| | | | 雑借入金返済 | 10,195 | 0 |
| | | | 雑借入金返済 | 2,000,000 | 500,000 |
| | | | 子備費 | 0 | 656,153 |
| | | | 次期繰越金 | 690,851 | 0 |
| 合計 | 12,620,235 | 12,056,153 | 合計 | 12,620,235 | 12,056,153 |

昭和53年度収支予算表

自 昭和53年4月1日～至 昭和54年3月31日

| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
|-------|------------|--------|-----------|------------|---------------------|
| 科目 | 予算額 | 摘要 | 科目 | 予算額 | 摘要 |
| 前期繰越金 | 690,851 | | 総会費 | 1,100,000 | |
| 会費収入 | 20,000,000 | | 役員会費 | 850,000 | 理事会・常任理事 各支部総会援助 |
| 總會収入 | 300,000 | | 支部費 | 1,400,000 | |
| 名簿収入 | 100,000 | | 事務費 | 600,000 | 事務局人件費 |
| 利息収入 | 200,000 | 普通預金利息 | 人件費 | 2,840,000 | |
| | | | 旅費交通費 | 1,250,000 | |
| | | | 濶江編集費 | 4,000,000 | |
| | | | 名簿追跡調査費 | 500,000 | |
| | | | 学対費 | 2,000,000 | 大学祭 クラブ活動援助 |
| | | | 慶弔費 | 300,000 | |
| | | | 借入金返済 | 1,000,000 | |
| | | | 50周年記念積立金 | 1,000,000 | |
| | | | 名簿発行積立金 | 1,000,000 | |
| | | | 特別基金引当金 | 2,000,000 | |
| | | | 子備費 | 1,450,851 | |
| 合計 | 21,290,851 | | 合計 | 21,290,851 | |

新しい理事と支部長

- ▷(1)宇野善二郎・内田真二▷(2)中島春雄・松原四郎▷(4)中村 源・森元庸晃▷(5)岸本健蔵・清水忠文・長岡辰生▷(6)伊藤音七郎・町井 清・土手勘次▷(7)高垣 収・日南為雄▷(8)紫田秀一・大橋秀男・長尾 晃▷(9)武川茂夫・堀江秀二郎・山田信次▷(10)榊井貞詮・武内美次▷(11)筒井英夫・重里 実▷(12)阪上謹之助・百野 操▷(13)奥村美智子▷(14)上野満里子・柴田悦子▷(15)黒田 稔・大川良・木下一子▷(16)百瀬昭治・酒井克己▷(17)太田一澄・相馬士朗・西尾良明▷(18)貝塚 茂・浜本 泰▷(19)平田五郎・浅井一男▷(20)山村恭造・川野群平・小林郁夫▷(21)榊 喜作・畑 勉・奥山正美▷(22)森本真輔・大槻明司▷(23)西本集一・坂口良三▷(24)上野晃司・内田 実・岩田昭二▷(25)重藤卓三・川村敦朗▷(26)辰本博己・田丸寛二・坂井田雄賢▷(27)森泉新一郎・坂元 裕▷(28)鶴谷利一・大久保儀臣▷(29)大門寿郎・紀川賢太郎・長崎和夫▷(30)川上堅士・神田博・大室和弘▷(31)杉浦雄二・寺岡利之・山本昭夫▷(32)村田哲夫・中沢広凱・三木秀信▷(33)松竹喜満・丹波繁寿▷(34)岡崎竜雄・島口勝治・柏原義盛▷(35)須藤満征・木戸淳一▷(36)鈴木則男・福長俊之・竹本慶有

顧問 藤原光治郎・浅沼玄恵・梅田武文

現支部長一覧表

- ▷東京 服部友一▷東海 加藤正秋▷滋賀 野田邦弘▷京都 木下隆徳▷丹有 梶村文弥▷神戸 田中義一▷姫路 永川仁一▷和歌山 松本旬弘▷岡山 大森喜太志▷広島 佐々木一義▷山口 申田 一▷高松 矢野保郎▷徳島 谷 俊一郎▷高知 横田憲介▷北九州 嶋原正孝▷石川 石地与四太郎▷福井 内田 甫▷富山 重松 尚▷三重 水上敏夫▷西宮 八木米次▷岐阜 丹羽好輝▷南九州 宮田順一郎▷奈良 平尾義之助▷大阪市役所 金子昭典▷東播磨 北井清之

同窓会支部だより

支部活動ますます充実

同窓生も三万人を越えると全国各地へのバラつきも大変なものだ。これをまとめる支部活動のご苦労も察するに余りあるが、これこそ同窓会の原点なのだ。充実した支部活動が望まれる所以である。

東京支部

日本全体が夏バテになるような今年の猛暑は我等が東京も例外でなく、昼は体温近く温度にもなる上、ビル街は文字通り氣息エン／＼の態で、夜は夜で熱帯夜の連続で風鈴の音を賞でる予備サラ／＼なく、寝不足の体に鞭打ち、働き蜂よろしくこの不況に立ち向ってありますが、全国の諸兄におかれてはお変りなく健康のことと拝察いたします。

熱帯夜の関係ではありませんが東京支部の幹事会もこの春に予定しておりますが、何時も顔ぶれが揃わず、七月にも計画をしたのですが諸兄多忙を極め、再度延期となり、今秋に予定しております。

東海支部

東海支部がこの一年で最もショックな出来事は、前々支部長、大和和義則さん(三回)の逝去去った。昨年暮れの支部総会に珍しく欠席された。この頃から入院中とは聞いていたが、突然の逝去は、全く寝耳に水といった感じだった。病名は「すい臓がん」、享年六十三歳。社会的にも、母校のためにも、またこれからという若さである。葬儀は、春の風がまだ冷たい二月五日、刈谷市内の正覚寺で行なわれた。

支部からはシキビ一対をお供えし、岡田前支部長、壺山誠君(十回)と三人で参列したが、山門から本堂まで五十メートル近い参道の両側が、供花やシキビがびっしり並ぶという盛大だった。

世良同窓会々長、渡辺同窓会名誉会長を始め数多くの弔詞が述べられたが、従業員、青少年教育に尽力された文部大臣表彰を受けたこと、ライオンスクラップ役員として地区の開発に貢献されたこと、大イバンクへ角膜を寄贈されたことなど、大和さんの人柄を偲ばせる数々のエピソードが語られ、参列者に新たな涙をさそっていた。

今年も年末に支部総会を予定しているが、一人でも多くご出席願ひ、支部創立に貢献された大和先輩のご遺徳を偲び合いたいものである。

七月中旬には、名古屋市民会館で母校と愛知大学共催の「吹奏楽定期演奏大会」が開かれた。大阪と名古屋で一年おきに催される合同演奏会だが、ぎっしり埋つ

広島支部

同窓の諸兄姉、各地でご活躍のこととおよろこび申しあげます。

さて、広島は東京・中京、近畿の出先が勢揃いしており、いわゆる支店経済の街であり、大経大出身の方々も転勤とか出張などで広島を訪れる方々も多いので、本紙面を借りて新しい広島街を紹介させていただきます。

今年も年末に支部総会を予定しているが、一人でも多くご出席願ひ、支部創立に貢献された大和先輩のご遺徳を偲び合いたいものである。

七月中旬には、名古屋市民会館で母校と愛知大学共催の「吹奏楽定期演奏大会」が開かれた。大阪と名古屋で一年おきに催される合同演奏会だが、ぎっしり埋つ

京都支部

五十二年年度京都支部総会は、例年通り、五十二年の十一月十一日(金)午後六時より、京都市岡崎の洛陽荘において開催されました。本年度は学校側より泉谷勝美教授のご臨席をいただき、同窓会本部よりは、おなじみの比企事務局長と萩原常任理事のご出席をいただきました。

そして出席者二十六名が楽しい歓談の一夕を過ごしました。学校の近況を聞き、お互になつかしく旧交を温めることができました。

毎年このながら、三百七十通程のご案内状を送りましたが、二十六名の出席に終わりました。

毎年、同じ顔ぶれの方が出席されておりました。年一度の会合は、その意味でなつかしいものでありますが、やはり新しい方の出席をいただくことが大切であると思ひます。

本年度は十一月十日(金)、同じ場所で開催を予定しております。どうかおさそい合せのうえご出席をお待ち申しあげます。

平素のご無沙汰をお詫びし、同窓生のみなさまのご活躍をお祈り申しあげます。(京都支部長 木下 隆徳)

神戸支部

昭和五十一年発行の本部名簿をもとにして神戸支部名簿を作成したところ、会員数が一三七〇名となりました。会員が多いのに加え、移動も相当はげしいので正確を期すことはむづかしく、支部の名簿や、クラブOB会、仕事上のつながり、電話による確認等の手段により本部名簿に「不明」となっている人々の所在も調べ、一応基準となるものが出来上ったと思ひます。支部総会出席者にもこの名簿を配布しましたので、その反響を待つて、より正確なものを作成すべく努

姫路支部

支部結成三十周年記念総会
一、日時 八月十一日(金)
一、場所 北京閣
一、来賓 玉置学長、磯野同窓会副会長、比企事務局長

早いもので支部も満三十才の誕生日を迎え、同窓生も優に五〇〇名を突破した。過去には種々紆余曲折やマンネリ化もあったが、一応は、お目出度いことである。古より三の数とか三の倍数が、物事の變動とか展開を意味するといわれてきた。同窓会然りである。支部の運営、健全なる発展のための貴重なアドヴァイスを待つや切である。多数の意見の趣くところ、来年のことをいうと鬼が笑うかも知れないが、五十四年は八月十日(金)あたりを開催の目途としたい。

会員の健康と益々の発展を祈つてペンをおく。また会う日まで。(支部長 永川 仁一)

このように中核都市広島は、すべての分野で変わりつつありますが、広島の特徴である恵まれた気候風土、天災地災ゼロ、うまい地酒、生がきなど、瀬戸内の鮮度良好、豊富な魚、情にもろい広島女性などは、昔も今も変わりません。

同窓生も県下では六〇〇名以上を数え、各方面で大活躍しております。地場有力企業のフマキラーの富山常務(5)、中国醸造の阿寿賀常務(8)、生コン卸商組合

姫路支部総会が八月十一日に開催されるからと比企君から連絡を受けたのは、九日の午後だった。大学からは玉置学長と藤原先生が出席されるのに、同窓会としては予定していた世良新会長が所用のため出られないので、自分だけで失礼と思うから、ぜひ穴埋め役をして欲しいとの趣旨である。

永川支部長とは長い交誼があるのに、どういふ訳か今日まで姫路支部総会に出席したことがないので、喜んで代役を引き受けた。

その日は相変らずの炎暑、三十五度、午後三時四十五分、大阪発の新快速は、その名の示す如く快速を飛ばして、一時間十五分で姫路駅に到着した。

駅の周辺は大会の様相を呈し、特に駅前から白鷺橋を指呼の間に臨む大通りは、充分過ぎる程の車道を中心に、緑豊かな街路樹を両側に配したビル街が続き、その景観は、大阪の誇る御堂筋に匹敵する。

不思議なことに、支部総会を訪ねるごとに、何か変わったことに直面する。この度の姫路訪問でも、駅前の横断歩道を東から西へ渡る時のことであつた。十六か七の娘を抱きかかえるように

姫路支部総会に出席して

して、もがくように歩道を渡る中年の父親がいた。父親とも相当に酔っているようであつた。信号を気にしながら、娘を叱咤している父親に反して、娘は既にグロッキーで、殆んど脚がたたぬようである。娘の体重に辟易しながらも抱きあげるような格好で、とにかくこの歩道を渡らねばと、父親は懸命であつた。やつこの思いで歩道を渡りきると、娘をかかえたま、へとへと

その場に、しゃがみこんでしまった。何故、こんなに飲ませたのだから。世相とはいへ、過保護の一端を見せつけられたようであつた。一瞬、わびしさが胸をかすめた。

この駅前繁華街の一面、十二所前町に総会々場、北京閣がある。姫路駅から徒歩五分の至近の距離である。

定刻六時前になると、永川支部長をはじめ同窓の面々、続々と参集。玉置学長も顔に汗を流しての登壇である。

副会長 磯野 斉

その育成に尽力された支部長の労をたたえたい。引き続き、学長から大学の現況と今後の抱負についてご懇篤なお話があり、次いで、同窓会本部からは三万人を超す同窓生に對処して、役員機構一部変更による会長制の実施、大学本館増築完成による同窓会ホールの拡充移転、梅田・レストラン・ハレスを借り切つての本年度同窓会総会の企画などの報告があつて、一同満足の様子であつた。

は隔年一回ということに決まり、次回は、宇部・小野田地区で五十四年に開催を予定しております。同窓生お誘い合わせの上、ご出席をお待ちいたします。(山口支部長代 林 幸生)

高知支部

高知の名称「鳴子踊り」のお祭の頃が南国土佐の一番暑い時だといわれている。そのお祭の終わった暑い暑い八月十二日(土)に、高知駅前の第一ホテルで大阪経済大学同窓会高知支部総会が開催された。

集まりはお盆をひかえてか意外にも良くはなかつたが、量より質を誇る当支部である。定刻までは「いつもお世話になります」「元気がいいよ」「やあ」と総大の名のもとに同窓生が集まつて来た。

定刻を少し過ぎて、横田支部長の開会の挨拶にはじまり、遠路、猛暑のなかを当支部総会のために花を添えていただいた玉置学長、渡辺名誉会長の二祝辞をいただいて宴に入った。

高知自慢の「かつおのたたき」を中心に酒、ビールと盃がとぶ。こうなると、地位も、肩書も通用しない。ただ総大という一つの場で同じ釜の飯を食つたもの



山口支部総会から

晩秋の十一月二十七日(日)午後二時より、徳山市若宮町の松重ハイツホテルにおいて、五十二年度の支部総会を開催いたしました。母校側より、玉置学長、内海教授、同窓会本部より、世良常任理事、比企事務局長のご臨席を賜り、出席者二十五名、楽しいひとときを過ぎました。

定刻を少し過ぎて、山本幹事の開会宣言により開会。まず、串田支部長の挨拶および、支部の現況報告の後、世良常任理事の含蓄のあるご挨拶、そして、玉置学長、内海教授より母校の現況、比企事務局長の本部だよりと続き、居ながらにして母校の状況が手にとるようになり、懐しく拝聴しました。引き続き出席者各員の自己紹介……。

会が進むにつれ、年代の違いを越え、楽しく歓談いたしました。その雰囲気も同じ釜の飯を食つただけであつて、正に和気あいあいでした。次回の再会を約し、名残り惜しくも散会しました。今後、今回は三年ぶりでしたが、今後

山口支部

理事長横川氏(8)、山陽タンロップ古屋社長(11)、若い人では、タツタ電線所長武田純元氏(30)など、また、名誉会員の河野実元教授は下関市大学長を退官され、公益委員(中労委)として、なお、ご活躍中です。

足の便の悪さを若干割引しても、割合のんびりショッピング、遊びを楽しむことができ、文化、催事には事欠かない。宮島、岩国の観光地、旧海軍兵学校のある江田島などが一時間以内で行ける至近距離にあり、本当に住みよい「ひろしま」だと自信を持って紹介できます。

なお、小生、紙屋町の広島バスセンターという会社で働いておりますが、観光課には後輩野坂修吾君もおりますので、ご米広の節はぜひともお立寄り下さい。「広島は良いとこですけん、う、一べんきてみんさいや。来るときや電話をかけたつつかあさいのう。」(佐々木 一義)

福井支部

今回の支部総会は、諸般の事情により、三月十八日(土)敦賀トンネル温泉と決り、早速大学ならびに同窓会本部宛にご連絡申しあげた。後刻比企事務局長より、十八日は丁度大学の卒業式ということと、誠に最悪の日取りとなる、返す返すも残念に思いました。しかしながら予定通り、同日開催したところ、大学側より浜本先生、同窓会本部よりは比企事務局長がそれぞれそ方障お繰り合せの上、はるばると元氣な姿で、温顔を見せていただきました。それだけに、誠に嬉しく、当支部としては光榮至極でありたいことでありました。

殊に浜本先生には、ご遠路土曜日の超満員の汽車の中を、重い手土産をぶらさけてのご来場には、全くかえす言葉もななく、お礼よりも申し訳ない気持ち一杯でありました。

一泊という心のようも手強い、予定の六時を過ぎて、それぞれが会場に集會着席した。支部長の挨拶が終り、浜本先生の大学の近況と、ご所見の一端をごひれきいただきましたことは、有益なことでありました。

続いて、比企事務局長よりは、総大同窓会の状況ご説明の上、殊に経大同窓会としては如何にお話すべきかを、ユーモアの中に種々お話いただきましたことは、これまた拝聴にあたいするものでありました。

同窓会支部役員

| | |
|----------------|----------------|
| 東京支部 支部長 服部 友一 | 東京支部 支部長 服部 友一 |
| 東海 " " 加藤 正秋 | 東海 " " 加藤 正秋 |
| 滋賀 " " 野田 邦弘 | 滋賀 " " 野田 邦弘 |
| 京都 " " 木下 隆徳 | 京都 " " 木下 隆徳 |
| 丹有 " " 梶村 文弥 | 丹有 " " 梶村 文弥 |
| 神戸 " " 田中 義一 | 神戸 " " 田中 義一 |
| 姫路 " " 永川 仁一 | 姫路 " " 永川 仁一 |
| 和歌山 " " 松本 旬弘 | 和歌山 " " 松本 旬弘 |
| 岡山 " " 大森 喜太志 | 岡山 " " 大森 喜太志 |
| 広島 " " 佐々木 一義 | 広島 " " 佐々木 一義 |
| 山口 " " 串田 一 | 山口 " " 串田 一 |
| 高松 " " 矢野 保郎 | 高松 " " 矢野 保郎 |
| 徳島 " " 谷 俊一郎 | 徳島 " " 谷 俊一郎 |
| 高知 " " 横田 憲介 | 高知 " " 横田 憲介 |
| 北九州 " " 鳴原 正孝 | 北九州 " " 鳴原 正孝 |
| 石川 " " 石地与四太郎 | 石川 " " 石地与四太郎 |
| 福井 " " 内田 甫 | 福井 " " 内田 甫 |
| 富山 " " 重松 尚 | 富山 " " 重松 尚 |
| 三重 " " 水上 敏夫 | 三重 " " 水上 敏夫 |
| 西宮 " " 八木 米次 | 西宮 " " 八木 米次 |
| 大阪市役所支部 金子 昭典 | 大阪市役所支部 金子 昭典 |
| 岐阜 " " 丹羽 好輝 | 岐阜 " " 丹羽 好輝 |
| 奈良 " " 平尾 義之助 | 奈良 " " 平尾 義之助 |
| 南九州 " " 宮田 順一郎 | 南九州 " " 宮田 順一郎 |
| 東播磨 " " 北井 清之 | 東播磨 " " 北井 清之 |

有志の集い

昭和五十二年十一月二十六日(金)午後六時より、和歌山市の中心街京橋畔「うお市樓」で、在住の有志の方々のお集りを得て楽しいひとときを過ごしました。

会が進むにつれて新旧の隔たりなく、久方ぶりの旧交を暖め、論議つきることを知らず、それぞれ再会することを念じつつ幕を閉じました。

五十三年度秋には是非とも和歌山支部大会を大々的に催したく、同窓生の多数ご出席をお待ちいたします。同窓生の皆様のご健康とご発展をお祈り申しあげます。(十一回 坂田 文治)

北九州支部総会は、今年もまた福岡市で経大出張入試が行なわれたのを機会に、試験が終わった二月十八日に開いた。ところろは福岡市・西鉄グランドホテル前の、天山閣。この日はあいにくの大雪。入試受験生も遅刻者があつて、支部総会の集合も、ちょっと心配されたが、豪雪をつけて予定通り全員出席。さすが……の思いだった。

経大からは香川助教を始め佐藤、法貴両職員氏、同窓会本部からは十回卒の萩原常任理事の方々の出席を得た。雪の降る夜。久方ぶりの会合に、その

北九州支部

があり、また本会場準備などにあたりいろいろとお世話をお願いした。敦賀在住の吉村先輩に対しては、厚い感謝と、次回計画が述べられた。あわせて、支部長より今後の深い理解と強い支部協力要請がありました。

このような雰囲気の中から、序々に宴はたけなわとなり、各自それぞれの思いとごやかな語り合いの中で夜のふけゆくを惜しみながらも、石橋隆夫氏指揮による学歌を声高らかに、長谷川（第七回卒）先輩の経大ならびに同窓会本部のますますの発展を祈って万才三唱。

引続き浜本先生、比企事務局長より福井支部のますますの発展を要望されたご挨拶をいただき一同それぞれ床につきました。

翌朝、朝食後浜本先生をお見送りいたし、吉田先生は福井商業高校選抜野球球場により欠礼することと別れを告げられ一同福井商業高校の甲子園での健闘を心からお祈りした。

長谷川先輩の案内で、鈴木、田安岡氏運転の車に分乗し、美浜原電、雪どけの梅丈岳へと向った。梅丈岳においては昼食をかね長谷川先輩より梅丈観光の現状と、未来についての展望など遠大なその運営、規模が説明されたが、なるほど駐車場はすべて県外車で満杯でした。比企事務局長よりは、同窓会業務、教べんを通じての現代若者の心理状態と、その指導育成などについて、種々話題が提供されました。

富山支部

時間過ぎるを忘れるほどでありましたが、比企事務局長の帰途時間もあり、一同敦賀駅に向い、同駅にて今後の再会を約し、ここに意義ある福井支部総会を終えました。

なお、本総会には公務のため、今回は出席されなかった武内稔氏（第十二回卒）は福井県警本部四月異動で勝山警察署長に栄転され、その暇暇を發揮されることとなりましたから瀧江を拝借して一報しておきます。

大阪経済大学同窓会会員ならびに福井支部会のこれからのますますのご発展を心から祈りつつ、

福井支部長 内田 甫
(昭和五十三年四月記)

皆様方には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、富山支部では、去る四月二十三日、午前十一時三十分から、富山市内「ホテルまつや」において盛大に本年度総会を開き、お互の多忙さに紛れて、こころばらく間をおいたことを反省しながら、会員相互の親睦に、あわせて更に新たなファイトに燃えながら、母校への関心をいやがうえにも煽りたかめて大盛況を治めた。

当日は、支部員総勢九十名余りのうち、事前に二十五名の出席通知を受けて、役



富山支部総会から

また、今回の総会で、ぜひとも母校の吹奏楽、あるいは、マンドリンを富山に呼んで、演奏会を実施しては、という多数の熱意ある緊急提案には、支部長として本当に驚いた。しかもその主旨は、母校大阪経大のPRであり、県内有名高校の生徒が関西に相当流出しているだけに、母校へもつと入学希望者を送ろうというのである。開催の時期については、突然のことでもあって、来年度中に実施するということで、とりあえず連絡員を決めた。何卒母校の諸君はもちろん、全国の同窓諸兄にもご支援、ご声援をお願いいたします。

総会の後の懇親会も、以上のムードから、久し振りの話題が入り乱れる雰囲気の中で、得意なカラオケや民謡のノド自慢合戦で、戸外の花見客も顔負けの盛況を極め、この上げ潮に乗って、またまた臨時提案で、年内にもう一回このような会合をもっと盛り上がり、万場一致で決定し、最後に小生も胸上げされ有頂天このうえもない総会であったことを改めてご報告申し上げます。

本学の学術総合雑誌

大阪経大論集

創刊 昭和25年 年6回刊行
年間購料 ¥2,000円以上
お申込み先 中小企業経営研究所

昭和高校・第12回卒同期の集いから。(報告)

昭和高校・第12回卒同期会が去る七月十九日(水)午後六時より、大阪・東区の「山中荘」を会場に久方振りに開催された。出席者は京阪神在住の者を中心に遠くは鳥取からも走せ参じ、恩師・奥村・梅田・藤原の三先生にもご臨席をいただき、総勢二十七名が、思い出話に花を咲かせ、本当に和やかな一時を過ごした。

12回生は昭和二十年九月の卒業であったから、数えて今年で三十三年になる。戦後の激動期に生きた者達だけに

お互い苦勞も多かったと思われ、すでに五十の坂を越え、やがて定年も近くなつたこの時期に、久方振りで一堂に会し得た感慨はまた一入のものであった。今後は、もつと多くの人達が出席できるよう、開催の時期・場所も工夫して、出来れば毎年この会を継続させることや、次回世話人についても、出席者全員で確認し合い、最後に、なつかしい「学園歌」を合唱して、来年の再会を約し、別れをおしみなながら九時過ぎ解散した。(玉岡記)

なお、今回、急いで通知したこともあって、本部の比企さんから前後再三電話をいただき、激励されて恐縮に存じており、次回からは慎重を期したく、その節は是非とも関係方々のご出席をお願いしあける次第で、ここに報告かたがたお詫びにかえさせていただきます。

今回、役員改選で次の通り再選されました。

- 顧問 早川 由次 (7)
- 支部長 重松 尚 (23)
- 事務局長 小泉 俊夫 (30)
- (富山県支部長 重松 尚)

西宮支部

休眠支部として肩身の狭い思いをしておりました西宮支部ですが、当地在住の比企事務局長の発破もあり、漸く眠りからさめて活動を開始すべく、去る七月十四日(金)に第四回総会を開催いたしました。

最近、やや健康を損ねておられる増田支部長(一回)に代って、現在、西宮市会議員として八面六臂の活躍をされておられる八木次氏(一回)にバトンタッチをお願いし、学校側から山本、成瀬両教授、同窓会本部からは世良新同窓会長、比企事務局長を来賓としてお迎えして、西宮北口の厚生事業会館で久し振りに旧交を温めあいました。

従来、西宮支部は昭和四十三年に神戸支部から分離独立して、西宮市内在住者(現在約四五〇名)をもって組織してきましたが、今回、同じ阪神間にありながら宙に浮いた形となっている隣接市、芦屋、宝塚在住の同窓生諸兄を何とかして欲しいとの要望を受けて、会則の改正を行いました。幸い参会者の賛同を得ましたので、次回からはご案内出来ることとなりました。

ご案内申し上げた節は、芦屋、宝塚在住同窓生諸兄の多数ご参加をお願いする次第です。

芦屋・宝塚両市在住の同窓生諸兄を新しく会員としてお迎えすることとなり、八〇〇人余りの大世帯となり、世話役をおおせつかっている幹事(西宮市役所勤務者)は大変ですが、今までの怠慢に対するペナルティーと考え、新支部長のも

と気分を一新して支部運営を行ってまいりたいと考えています。

総会の出席者は三十余名で、あい変わらず参会者の少ない悩みは解消していませんが、同じ町に住みながら、意外とお互いの交流がなく、総会出席を通じて旧交を温めあう場面もみられ、次回からは今までに出席しなかつた人にも、是非、出席して折角の機会を活用していただきたいと願っています。

(西宮副支部長 黒才 洋)

大阪市役所支部

当支部は、初代支部長 広田実氏(一回卒)など歴代支部長が発起人として、昭和二十五年に会員二十数名で創立され、爾来二十八年余の歴史を持ち、会員も年々増え、現在、特別会員(市役所OB)十三名、正会員一五〇名余(内本年卒業生十四名)と大きく飛躍発展して来ている。

また、昨年、市立学校教職員同窓生の皆さんが当支部に加入したいとの申し入れがあり、本年度支部総会でこれが承認され、今後益々充実した支部活動が期待されている。

この歴史と伝統を育てあげられた先輩諸氏に深く敬意を表する次第である。

支部活動としては、日頃の勤務に役立つべく会員相互の親睦を図るため、年一、二回の総会を開催するとともにゴルフコンペ等を計画している。

本年度の支部総会は、去る一月二十五日(水)大阪市教職員互助組合「阪南荘」で開催。本部から萩原常任理事、比企事務局長を、また学校から、山本教授、千葉経営学部長をお迎えし、学校の近況等の報告を受けながら盛大に行なつた。

その席上、市立学校教職員の同窓生代表として扇町高校藤田潤一氏(二十回卒)を迎え、当支部への加入についてご挨拶を受け、会場一致でこれが承認され、今後当支部会員として共に歩んで行くことになった。

当支部も、会員の増加に伴い、綿密な支部活動をするため、支部幹事を増員することが認められ、金子支部長以下十二名の幹事で運営することになった。

終りになったが、当支部発足以来幹事としてお世話をしていただいた坂田

昌男氏(五回卒)が、昨年六月九日に忽然として逝去されたことは、我々支部会員一同深く悲しみにうちずんでいる次第である。

坂田先輩の霊安かれとお祈りいたします。(合掌)

(幹事 藤川記)

岐阜支部

去る五月十三日(土)、右に金華山を仰ぎ、左に長良川の清流を望む岐阜電信話会館和室において、玉置学長、玉岡総務部長を、同窓会本部より比企事務局長をお迎えして、岐阜支部総会を開催いたしました。

この日の岐阜は、四時過ぎでも汗を拭う夏が、もうそこまで来ているのだと思わせるような陽光が木立の合間にきらめいて見える日でした。

実は、今回が、私にとっては岐阜支部総会へのはじめての出席でしたが、私はドアを開けて会場に入り、既に十名余りの方がお見えになっていました。大先輩の方々ばかりで、一瞬、自分がここに入ってきたのがおかしいのではないかとというような気持ちにとらわれた程でした。

そして定刻の五時になりますと、「どうぞ皆様、席にお着き下さいませ。まあ今日は同じ学園の仲間ですから、気楽にやりましょう。」ということで、各人お酒をつぎ合せて、まず、お互の健康を祝し、丹羽支部長のご挨拶につづいて自己紹介に入りました。

ところが、自己紹介が終るころには最初の懇話もどへやら、まったく学生時代以上の一体感、いやむしろそれ以上の相互の信頼が当然のような雰囲気になっていました。

そうこうして会が終りを告げるころには、この岐阜では各人の親睦を図るのはもちろんのこと、お互にいろいろの面でも出来る限りの手助けやアドバイスを与え合い、実質的な会として輪を拡げてゆこうじゃないか、という大先輩の迫力ある意気込みに大いに勇気づけられ、わが母校には頼りになるすばらしい先輩がられるのだ、という誇りをいただいた次第

反面、残念に思いましたのは、六十有余の方にご連絡申しあげたにもかかわらず、出席者の少なかったことです。

本年度内に、いま一度、支部総会を開催するということになりましたので、その節は、是非とも多数の人がご出席下さいますようお願いいたします。

当日、遠路ご出席いただきました玉置学長、玉岡総務部長、比企同窓会事務局長はもちろんです。当支部の母体である東海支部からご多用中にもかかわらず、お祝にご臨席をたまりました加藤支部長、岡田大先輩に心から厚くお礼申し上げます。

最後に、全国経大同窓生の活躍を大いに期待し、母校のますますの飛躍発展をお祈りいたします。

(岐阜支部長代 青木 孝爾)

東播磨支部

兵庫県の南、瀬戸内海に面する明石市、加古川市、高砂市を中心に、三木市、小野市、加西市、西脇市、加古郡、印南郡、美囊郡、加東郡、多可郡を含む東播磨支部が、新しく誕生して二年を経過しました。

第二回の同窓会東播磨支部総会は五月十四日(日)午前十時より、加古川市市民会館において、ご遠路はるばるご来加下さいました玉置保学長、同窓会理事長渡辺達好先輩、比企事務局長先輩をお迎えして盛大に挙行されました。

総会は北井支部長の挨拶に始まり、第一回総会とき継続審議になっていた会則が万場拍手で可決された後、玉置学長より学校の近況、渡辺理事長より同窓会の現況、比企事務局長より「瀧江」製作の苦心談などを拝聴し、過ぎ去つた若い日の頃がなつかしく思い出され、母校の発展のため、さらに一層の努力を盡し、ならぬとい決心しました。

第三回総会は一泊旅行により、さらに会員相互の親睦をはかりたいとの意見がでて、全員賛成、出席会員の大層確保に努力することを約束して散会しました。

(東播磨支部長 北井 清之)

「ゼミの集い」欄を設けましたので大いに活用してください。

この原稿は、現在、大阪経済大学でゼミナールを担当されている先生がたにおたずねしたうち、返事をいただいたものを集録したものです。

ご参考までに、事務局よりゼミご担当の先生におたずねいたしました事項は、

一、最近ゼミナールOB会を開催されたことがご

ゼミ短信

ざいすか。されました時は、その世話役に原稿を提出するようお願いして下さい。

二、先生のご近況につきまして卒業生に一言お知らせ下さい。

三、その他雑感、随想などございましたらご寄稿下さい。

(事務局・アイウエオ順)

井上ゼミ 井上 清先生

今年で私の本学勤務も三十一年の長期となり、毎年世に送り出した数百名のゼミ出身の諸君が、全国各地で、それぞれ元気に社会の発展、向上に貢献しておられることは喜びにたえません。私も本年還暦を迎えましたが、元気に勤務し、昨年八月にはドイツ民主共和国政府の招待により、同国を二十日間にわたって視察する機会をえました。また、新しい名簿も発行されましたので、一覧の上、現住所の不記載・変更・就職先の変更の方は、小生宅宛、ご通知下さるようお願いいたします。

清寿会 (井上ゼミ総会)

昭和五十三年八月二十七日(日)、井上ゼミ「清寿会」記念総会を北の大和屋(大阪府北区堂山町八八

番地)で約五十名が出席して盛大に催された。

今回は「清寿会」創立十周年記念と、先生の還暦のお祝いを兼ねた記念パーティーであり、来賓の祝辞、記念品の贈呈がおこなわれた。また先生よりは、経済情勢の記念講演をおきし、先生のサイン入り色紙が出席者全員に配布された。

なお、昭和五十三年二月五日の第五回総会において新役員を選出が行なわれ、中村昭吉(二十一回)、小西幸雄(二十七回)、平島慎一(二十八回)、以上三名が代表幹事として選出され、同時に事務局の所在地を千六六三 兵庫県西宮市段上町六丁目六、仁川フラット四棟一〇六号 井上清方に変更した。(清寿会事務局より)

上岡ゼミ 上岡正行先生

ゼミ卒業生の皆さん、お元気で活躍のことと思います。

上岡ゼミナールには相変わらず毎年三十数名の学生諸君の参加があり、熱心に勉強しています。ここ二、三年は、簡潔な記述ではありませんが、マーケティングを含む流通全般の問題を扱った優れた文献である「現代の流通機構」(森下二



(清寿会)

定した。

役員 会長 松村英二(21回)
副会長 川端祥瑞(24回)
岡田喜一(36回)
会 計 佐藤春吉(30回)
事務局 岡本光正(21回)
幹事 卒業年度別 二名

午後六時に、三畳の大広間に懇親会が始まった。卒業回生別のかくし芸コンクール、ユニークな抽せん会等々、先輩後輩が腹をかかえて談笑、交歓ムードの中に酒宴たけなわとなる。

九時すぎ同期毎に設けられた部屋にて夜を徹して談話に耽り、翌十二日朝食後、離れ難き心をおさえつつ解散した。

倉辻ゼミ 倉辻平治先生

ゼミナール現況。

ゼミナール学生数は、三、四回生ともそれぞれ二十七名。ゼミのテーマとして、マックス・ウェーバーの問題意識を下敷きに、経済成長の功罪、特に罪の面の様々な状況をとりあげています。

〇ゼミ卒業生との交流。

毎年一回、七月の第二土曜日に、ゼミ現役学生(幹事)をも交えたゼミ卒業生相互間の親睦を深める集いをもつことにしています。今年も第七回を開催、全国各地から多数参加。楽しい一夕をすごしました。

倉 春 会

倉辻ゼミの皆さん――

「暑いですね」、「今年の暑さは異常ですね」と人に会えば、まず

次也著、世界思想社刊)をテキストに使用しています。むずかしいけれど、よく読むと理解できる、というのがゼミ生の感想です。

暑さの話がでる程暑さが続いていた七月六日(土)午後六時、梅田「本むさし」で今年の倉春会が開催されました。思えば、梅田の「丸万」で、当時現役だった森川氏(39)を中心に産声をあげた倉春会も、回を重ねてはや第七回を迎えることになりました。

当時は、西は北九州から東は東京からと年代こそ異なっても、同じ倉辻ゼミの釜の飯を食った六十有余名の輩が先生を中心に集り、盃を傾け一夜を談笑し旧交を暖めました。

会は陶山会長(19)よりの開会挨拶、倉辻先生のお言葉に続き比企同窓会事務局長よりご祝辞をいただいた後、東京から駆け付けた牧田氏(19)の音頭で乾杯して無礼講の宴会に入りました。

もう年令も、卒業回数も関係はなく、大広間の六十有余名が先生を中心に、「あの時は……」、「あの頃は……」、あるいは、お互いの健在を確認し合い、肩を叩きながら盃を傾け合ううちに、カラオケにのって自分で自分の歌に酔っている歌声が流れる頃には、あちらに一団、こちらに一群と輪ができて、写真のフラッシュがきらめき、正に宴たけなわという言葉を書いたようでした。

倉辻ゼミの時間は長くても、このような時間は異常なまでに短いものです。梅田界限が更け始める頃、先生のベーター・ペンの第九交響曲の第四楽章の「合唱」の一節が、かろうじて音譜からはずれずに広間に流れたのが一つの契機となり、記念写真を撮り、学歌、道遙歌を肩を組み、声高らかに歌い、

今年六月に三年のゼミ生が上野の大同門でコンパを行ないました。これまで経験した多くのコンパの中でも、わたくしにとって印象に残る楽しいものでした。

また、七月夏休みに入って直ぐに、四年のゼミ生が山陰の竹野切海岸へ二泊三日のゼミ旅行をしました。浜辺で野球などして大いに遊んで(ワイバー?して)きました。が、なんだかこの夏の猛暑に備えて、学生諸君が中年になってくたびれているわたくしの健康管理をしてくれたような気がしました。

以上のような状況で、真面目で思い遣りのあるゼミ生に支えられて教師としての喜びを味わっていることを、先輩の皆さんにもお伝えする次第です。

喜田ゼミ 喜田義雄先生

喜田先生によるゼミナールの第一回の卒業生(21回)OB会「喜楽会」は毎年、年末に大阪近郊(京都、宝塚)で会合をもっておりましたが、昨年は熱海「かじか荘」(27回高野氏経営)にて十二月三日に開きました。

先生をお迎えて同じ開催するのであれば関東地区の喜田ゼミ卒

お互いに、今日、元気であることを祝し合いました。そして、このまま時間をとめて語り合いたい……別れ難い人間の非合理的な何かが心の中を走り抜けるが、現実には、名古屋から参加の橋本氏(19)の閉会挨拶で、倉辻先生のご健康を祈念し、来年の再会を約しながら、梅田のネオン街へ一人、二人と消えて、この盛会も幕をおろしました。

来年こそ君も参加して下さい。最後に、この紙面を借りて、当日はもろろんご協力いただいた現役諸君に心から感謝いたします。(倉春会会長 陶山 智康)

鯉田ゼミ 鯉田勝己先生

卒業生の皆様如何お過ごしですか。最近の私のゼミは、税務会計を担当しています。

昭和四十二年からすでに十年を過ぎ、私も四十四才になりました。一度、皆様と共に酒をくみ交したと思っっています。

最近、私はテニス(硬式)に熱中し、毎朝五時過ぎより七時まで一年半続けております。おかげで体重は八十一kgより七十三kgになりよるこんでいます。皆様も、社会生活に順応して、それぞれ何らかの趣味を持ち、楽しい日々を送って下さい。いずれまた。

滝内ゼミ 滝内大三先生

卒業生の皆様お元気ですか。私は、最近、マスター・ラーニングの研究を手がけています。まだほんのわずかな理論的考察の段階ですが、教職についておられ

業生にも呼びかけようと話がまとまり、浜田純男氏(喜楽会21回)中西国男氏(23回)大崎安夫氏(23回)馬場末光氏(24回)他OB生のご尽力により「喜田ゼミ関東地区親睦会」の名称にて、二十五名の参加を得ました。

母校を遠く離れた所で、たくましく活躍する教え子と数年振りに顔を合せる喜田先生は、にこやかに、喜びに溢れ、大きくうなずきながら談笑されるのでした。

関東地区世話人の努力で此度の企画は意義あるものとなり、皆様方にも喜んでいただいた事に力を得て、本年は四国道後温泉にて開く計画であり、松山在住の吉原貞夫氏(27回)にご協力願って四国在住のOBの方々にも参集していただく予定です。

第2回喜田ゼミナール同窓会総会

二年前、古稀を祝われた喜田義雄先生ご夫妻を迎えて同窓会の発会式が行われた同じ会場の東大阪市、国際観光料亭「寿楽」において去る五十三年二月十一日(祝)に第二回喜田ゼミ同窓会総会を開催した。

長びく不況の影響で出席如何と気づかれたが、東京や四国、九州その他の地方からの参加を得て総数一〇八名(うち女性四名)が一堂に会した。

午後三時より大会議室にて、喜田先生のご挨拶で総会が始まり、岡本事務局長により、企業部会の活動状況他事業報告がなされ、佐藤會計より決算報告があり、役員選出の審議を行い次の通り留任決

定した。

役員 会長 松村英二(21回)
副会長 川端祥瑞(24回)
岡田喜一(36回)
会 計 佐藤春吉(30回)
事務局 岡本光正(21回)
幹事 卒業年度別 二名

本年夏、本学山岳部は、待望の海外遠征として、アラスカ・マッキンレー峰（六一九四メートル）を目指した。メンバーはO・B二名、学生三名である。六月十七日成田空港を出発したメンバーは、七月七・八日の両日にわたり、幸運にも全員登頂という輝かしい記録を残して、七月二十一日無事帰国した。

アラスカ・マッキンレー峰 遠征によせて 山岳部

さて、ここ数年來、わが山岳部は部員減少に悩み、昨年度には、行動可能な部員は三回生三名のみという状態になった。こうした、じり貧状態のなかでは、部の存廃を考え戦々恐々とする余り、本来の目的である登山活動を見失いがちである。今回の遠征は、そうしたときに、「おいぐ下級生もいてないし、ソト（海外）でもやろうか」という

の変更を余儀なくされた時点で、遠征計画の中止さえ考えられた。だが、終始われわれの根底に脈打っていたのは、山への情熱であり、忘れることのできないうザイルへの愛着であった。幾重もの難関を乗り越え、遠征を実現に導いたのはその数少

ない部員達の情熱・努力があったからに外ならない。又、黙々と、ひたすら自らに課す彼等の姿。この姿こそ今回の遠征を無事成功させた証でもあろう。この遠征は「成功」であつても「完成」ではない。メンバー個々においても、驕ることなく、この成功を自らの道程のほんの一部分のワン・ステップと見なし、この一歩を自己の基礎にきざみ、涵養していくことこそ今回の遠征を意義あるものとするであらう。

最後にになりましたが、紙上をかりまして厚く御礼申し上げます。

日程
6月16日・アンカレッジ着
6月20日・タルキトナ着
6月29日・ベースキャンプ設営
7月2日・アタックキャンプ設営
7月7日・第一次アタック成功
7月8日・第二次アタック成功
7月12日・ベースキャンプ撤収
(三十二回卒 林 記)

寄り下さい。

小生の近況——雑用に追われていますが、元気にやっています。

松原ゼミ 松原保太郎先生

去る六月、金沢、輪島方面にゼミ（四回生）合宿旅行をしました。参加人員三十名（二名病欠）、今迄の内でも最も盛大でした。

また先般のゼミ会合のときに各年度のOB会の名前（愛称）を統一したい。「ヤロー」としては如何、その発言あり、判り易く、親しみ易いから、何れ近々に開催のOB大会の議題としたい。

諸兄のご健闘を祈ります。幹事は大阪機工の辻千太郎君で、近々海外より帰朝、諸兄に連絡するはず。

松原ゼミ 松原和男先生

小生のゼミナールでは、昨年からゼミナールのなかで、ソフト・ボール大会を開いています。今年も、去る四月二十二日に、三、四回生のリーグ戦をおこないました。優勝は昨年に続いて四年Aチームでした。ゼミ生諸君の協力です。素晴らしい優勝カップもできました。小生の研究室に飾ってありますので、ご米学の折にでも、お立

玉井ゼミ 玉井孝弘先生

悪男悪女、達者であるか。余は酔眼もつろうと人生を覗じておる。この夏、ロンドン国を訪ねたが、エゲレスの庶民は明るく、人なつこい。エゲレス語はわか

玉井ゼミ 玉井孝弘先生

申奏、巫子の奉ずる舞樂と進み、昇神の儀により三十年祭の幕は閉じられました。別室にて先生を偲ぶ昼食会が催され、思い出話に花が咲き、和やかな一刻を過ぎましたが、参列者一同、今さらながら公私ともに先生の偉大さに唯々感嘆するばかりでした。

早くも六年たつてしまいました。その後も相変わらず私のいう「斬つたら血の出るような石化」を狙って撮り続けてきましたが、今回もその作品の一部を小じんまりと並べてみました。（竹林祐吉石仏写真展パンフより）

運輸業務功労績により 藍綬褒章を受賞

第三回卒 渡辺 達好氏

渡辺達好氏は本学卒業と同時に京阪電鉄に入社。その後、大阪阪タクシー社長、日本急行バス常務取締役を歴任。現在は京都バス取締役社長として、また、京都府バス事業協同組合理事長、日本バス協会労務委員会委員としても活躍しておられ、業界発展に尽した功績により受賞されました。

なお、同氏は同窓会名誉会長であることをご存知の通りです。

永年功労者として 日本赤十字社から表彰

藤本美則君（第二回卒）が大坂日本赤十字社大阪支局長代行となられました。小生とは二十年來の顔見知り、勤勉そのものといった会計部長であったが、昭和五十三年五月一日付で前局長の退官により、おされて代行となられた。言行一致の人として社内にも人気のあるのは経大に在るものとして嬉しい限りです。ところが、六月の水上新安全水泳講習会中、小生が永年功労者であったとして日本赤十字社から表彰状をいただいた。その時の授与者が藤本君でした。授与される時、今一度顔を見直した次第です。赤十字事業の重大さ、国際的な事業も増えてくることと思ひます。一層のご活躍を期待したいものです。

(古久保記)

本学の創設者・黒正 巖 先生の三十年祭挙行さる

大阪経済大学の創設者であり、昭和高等商業学校校長、大阪経済大学初代学長でもあった従三位勲二等、経済学博士故黒正巖先生の三十年祭が、黒正家の主催により、八月二十七日（日）岡山市丸の内一丁目「石山花壇」において厳かに執り行なわれま

した。当日は、暑い暑い日でしたが、ご親族のほかは大学より浅沼教授、玉岡総務部長、同窓会本部より世良会長、比企事務局局長、百瀬理事、岡山支部より大森支部長、久保、村山両氏が参列し、定刻午前十一時に神主の降神の儀により三十年祭が始まりました。祭典は、のりと奏上、祭主光子夫人の玉串奉奠、参列者玉

の七日間、心齋橋のヤノ・ギヤラリーにて先生の労作、石仏写真の展示会が開催されました。三月十三日（月）より十九日（日）の七日間、心齋橋のヤノ・ギヤラリーにて先生の労作、石仏写真の展示会が開催されました。

「昭和四十六年に、第一回石仏写真展を開いてから、早くも六年たつてしまいました。その後も相変わらず私のいう「斬つたら血の出るような石化」を狙って撮り続けてきましたが、今回もその作品の一部を小じんまりと並べてみました。（竹林祐吉石仏写真展パンフより）



78 竹林祐吉石仏写真展

就職懇談会に見る母校愛

＝本年は本学と四国で開催＝ 就職希望者と同窓生の交流を



もつとあつた。就職戦線の大変なものがあつた。就職懇談会。内々の意見を、ここに集録してみた。

第二回

京阪神地区就職懇談会

昨年が続いての懇談会とあって、準備にあたる我々就職部員も比較的環境なれした感じて、10日ほど前から無我夢中で取りかかった昨年のことを思えば、今回の準備には

余裕すら感じられる。なるほど「苦は楽のたねだ。開会2時間をひかえて全員ひきまわした顔を寄せて最終の打ち合わせをする。万一出席の先輩諸氏に不愉快な思いをさせるようなことがあつてはそれこそ大変だ。週末にもかかわらず、わざわざ御足労願うのだから。」

会場設営、立て看板設置、収録マイクの点検、茶菓子の不足分はないか、等々。すべてにOKが出たのはかれこれ一時間も経つた頃だろう。午後1時開会。竹林就職部長の開会挨拶に続いて、玉置学長、藤田理事長そして同窓会を代表して世良鎌次同窓会常任理事のご挨拶。やっと順風を得てすべり出したヨットの思いだ。

2時より出席者を二分した分科会方式による懇談会開始となる。第一班の座長に三井生命保険相互会社にお勤めの松田和夫氏、第二班には三和信用金庫勤務の西山晴雄氏がそれぞれ選出された。両班とも昨年に続いて出席下さった方が三分の一もあり、顔なじみとあつて初めから和気あいあいとしたムードの中で進行する。

「同じ釜の飯を食った仲だし、ぶつちやけた話でいきましよう。遠慮なくどしどし発言して下さい。」座長の名司会でグッと会場が柔らいだ。記録する私の肩もほぐれた感じだ。「自分を採用しなければ損です。」と面接試験で言った本学生がいたが、このぐらい自信をもって言えるような学生を養成して欲しい。」

高松会場でのことなど

交通網が発達したとはいえ高松への道のりは遠かった。午前8時、理事長藤田敬三先生のお供をして新大阪駅を出発した私達の両手は、配布資料や懇談会用の小道具で一杯であった。やっとの思いでホールパークラフトの席に腰をおろした私は、啄木ではないが血の気の無い掌のくい込んだヒモのあとをじつと見つめたものである。

高松に近づくとつれて青空が見えた。既に四国は夏到来の季節感があつて、さすがに暑い感じが会場——高松国際ホテルのシャリアリアが真紅のジュータンを浮彫りして見事だ。汗をさます暇もなく、サア準備だ。開始時間が我々を追いかけている。受付には同行の小西さん、在学中医務室でずいぶんお世話になった人もいる

スポーツ短信

この欄での報告は本年4月以降のものですのでご注意ください。

準硬式野球部

＝全日本大会で準優勝＝

◇空手道部

関西学生空手道個人選手権大会において田中君(四年)が四位に入賞した。

◇剣道部

関西学生剣道選手権大会において柝原君(四年)が三位、若林君(四年)がベスト8、鶴見君(四年)、北野君(三年)は敗者復活戦に勝ち、いずれも全日本学生剣道選手権大会への出場権を獲得

◇軟式庭球部

西日本学生選手権大会において団体戦でベスト8に進出した。個人戦では川越(三年)、沼田(四年)組が準優勝の栄光に輝いた。川越、沼田組は関西インドア大会、

◇アメリカンフットボール部

近畿アメリカンフットボールリーグ戦において優勝し、二部リーグトーナメント大会に出場、愛知学院大学を降し、さらに二部入替戦では追手門学院大学に大勝して待望の一部入りを果たした。

◇卓球部

関西学生卓球リーグ戦(一部)において四位の成績をあげた。

◇山岳部

陸上競技部は第五十五回関西学生陸上競技対抗選手権大会でみごとに二部総合優勝し、念願の一部に返り咲いた。

◇山岳部

創部三十周年を記念して、七月七日アラスカのマッキンレーの南峰の登頂に成功した。

◇山岳部

隊長 川田寛(三十四回卒) 村手勉(三十八回卒) 津田信幸(四回生) 若林昇(四回生) 柴崎修司(四回生)

ことだろう。

我々が期待していた人数よりやや少ない出席者であったが、なによりも地方に於ける初の懇談会とあつて数よりも内容に寄せる我々の期待はかなり大きい。

予定通り13時、藤田先生の学術講演が始まった。演題は「国際問題の展望と大学教育」。我々の耳には到底むずかしいお話と聞いていたところ、坂本竜馬や勝海舟等、歴史上の人物が次々と登場するので、つい自分の仕事を忘れて聞き入っていた。

同窓会はかつて先生に学び教えを受けた方がほとんどだから、久しぶりに学生時代にかえって耳を傾けている真剣な姿が印象的だった。懇談会に入ったのは14時。比企

同窓会事務局局長が議長に選出され、ひととき大きな声が会場にあふれたスタートした。最初や、緊張ぎみの同窓生も、議長の軽妙なりードにつられて次第にはぐれて発言が多くなりだした。本学での懇談会に比べて総じて発言時間が長い。それも熱っぽく、そしてトツツと話される。誠実な人柄がにじみ出ているようである。

紙面の都合上掲載できないが、就職部に対する忠告や大学に対する強い要望もあつた。どの意見も本学にとつては身内なればこそその貴重な意見であつた。

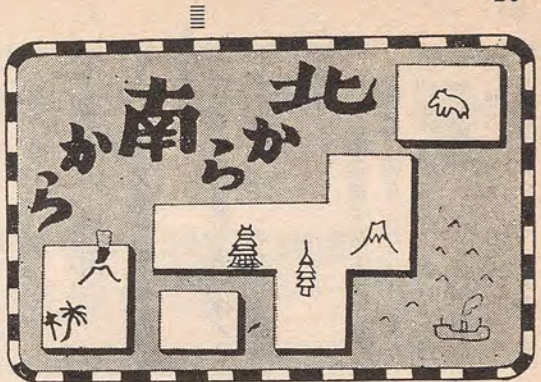
絡船ナンテ感興は湧かない。ふと、楽しみにしていた「さぬきうどん」を、とうとう食べる暇のなかったことに気が付いた。「そうだ、甲板に立喰いがあつた。いそいそと急いだが、たぐいまれり切れました。」いまいまいそに高松の空を見やったら、水に映るネオンが次第にちいさくなってゆく。

地元に就職を希望するからには中小企業といつて敬遠してはならない。企業は時代と共に進展、かつ安定しつつある。

ささやかなバーティーもそこそこに、あわただしい一日の店仕舞？をした我々は、やっとの思いで最終便の連絡船に間にあつた。汗ダクダクの肉体は「都はるみ」の連

個人戦では田島(三年)・岡田(三年)組が三位、高倉(四年)・白井(二年)組も九位に入賞した。シングルスでは山本君(二年)が五位、田島君(四年)は優勝という成績をおさめた。

(一九七八・九月 横野記)



アンケート集

この原稿は、同窓会会員の皆さんからお寄せいただいたもので、事務局の名簿に
より無さく抽出で選んだ方々です。
といつても、単に何でも結構ですというわけにもまいりませんので、特に①現況
について ②母校同窓会に希望すること ③同窓の友人などのことで ④自由にお
書き下さい。ということアンケート式の質問に対してお寄せいただいた短信です。
もとより、同窓会会員は全国各地にあって、北は北海道から南は沖縄にいたるま
でそれぞれ活躍中ですが、これはその近況です。

特色ある大学になってもらいたいと存じ
ます。

一について。北海道硫黄退職後、現在、
明治乳業系列の酪農牛乳直販(株)で総務、
経理担当。第二の人生を送っております。
二について。なかなか暇もなく、せめて
東京支部の方々にお会いしたいと存じ
ます。貧乏暇なしでしょうか。

三について。渡辺理事長の先輩として
のあの厳しさは、この世代になっても感
謝します。吉原、長岡、清水(忠)大兄、
お元気ででしょうか。故米津教授のご奉仕
により学園に植えられた一本、一本の樹
木は母校の大発展につながっていること
と思っております。

四について。経済情勢が変ってきました
た。スペシャリストよりも、仕事の上で
中広い教養を身につけるよう、後輩の皆
様にお願ひします。

第六回 北島 重司

卒業以来早や三十数年。月日の流れを
しみじみ感じます。数年前、母校をはじ
めて訪問し、その発展ぶりに驚きいつた
次第です。上新庄の駅に降りた時、余り
の変わりようにとまどった位でしたが、昔
のひなびた通学路をやはり懐かしく思い
出しながら歩いてみました。
われわれも早や還暦近くになりました
が、ますます張きつていきたいと考えて
います。

第六回 大森 侃二(旧森)

同窓生の皆さんお元気で。小生、
公私の面でいろいろ苦勞しながらも、体

の方は元気でやっております。お互いに
学窓を巣立って三十八年、友は年々減り、
頭髮の白さはとみに加わる年令になりま
した。青年は未来を語り、老人は過去を
語る、といわれますが、過去を語る人に
ならぬという努力している次第です。そ
うはいまの歴史の歯車を逆回転し、
若かりし頃に若返って、大いに語る機会
を持ちたいものと思っております。

第八回 岸野 理重

十六年十二月。第八回生は最初の繰上
げ卒業をしました。夏休直後の前期の試
験。繰上げの決定。徴兵検査。確定的な
卒業後の入営。そして十二月八日の開
戦。まさに慌ただしく、それでいて何か
ピンと張りつめた日々が続きました。
卒業試験を取止めるよう、代表が、京都
の黒正校長のお宅に行きましたが、結局、
試験は行われ、当日の試験を終える夕方
まで仮眠し、徹夜するという一週間が
続いたことを思い出します。

母校周辺の川と畑が消えたのは残念で
すが、立派な建物の一隅に、当時の校舎
も残っているのはうれし限りです。
商都の東北。澱江の母校の発展を祈り
ます。

第八回 清水 一郎

学窓をいで既に三十有余年。四年半の
戦歴を経て、戦後の混乱期を過ぎ、サラ
リーマン生活三十年。ここに定年を迎
えて現在は、時に孫を相手に、自適的生
活を送っております。
今更ながら、白球を追って過した日が

懐しく、卓球部の先輩ならびに諸兄各位
のご健康をお祈ります。

第九回 横山 宏一

卒業年月を記入しながら、九月に繰上
げ卒業等軍隊も終戦で何か解散したよう
な形、どうも中途半端だった前半生の反
省から、会社は何とか停年まで勤め、五
十年に二応卒業。引続き郷里で同じ仕事
(損害保険)になつておりました。
軍人半額がつい／＼満額をオーバーし
て頑張っております。

第十回 田中 喜三郎

北海道もようやく梅の花、桜の花も一
せいに咲き、本当に春らしくなってきました。
長い冬ごもりから正に解放された
気分です。北海道に渡って、既に三十二
年経過しましたが、同窓の土が少なく、
思い出話しできないのが、いささか淋
しい感じ。名簿によれば、七、八名
おられるようですが、なんとか一堂に会
して、語り合いたいものです。そして、
支部の組織ができ、母校または同窓生の
ためにお役に立つようになれば大変うれ
しいと思っております。
紙面の都合で以上。

第十一回 山田 芳弘

思えば昭和十九年九月十五日、繰上げ
卒業式を終え、十月に海軍予備学生とし
て入隊。海軍予備少尉として終戦を迎え、
むなしく帰郷。以来早くも三十数年を経
く……、皆それぞれに社会的に責任ある
ポストで忙しい毎日なのだ、あきらめ
が先立つ。
卒業後、一度、梅田で全員集合したよ
うに、今一度の会合をと思つてはみるの
だが……。
思いあたるもの四名にお願い。連絡を
こう。

第二十回 平井 広勇

卒業二十四年目にして同窓会誌に掲載
依頼を受け、母校へのご無沙汰、欠礼統
きを申し訳なく、お詫びいたします。
ゼミ(交通論)稲原先生とは年賀状の
みではありましたが、卒業以来絶えること
なくご交情賜わり有難く存じています。
同窓生、林芳彦君(近畿相互)和氣淳君
(東急車輛)田中宗康君(池田銀行)、共
に大阪にて健在。当社に先輩大沢隆氏、
後輩六名在勤中。
「澱江」のますますのご発展を祈念い
たします。

第二十一回 間 敏幸

一、卒業後二十数年、大阪、東京と十
年づつ、約半分づつの生活です。現在、
後半の東京生活になじみが生まれてきて
います。大阪は大分遠い記憶になりつつ
あります。東京で大経大のPRをするの
も一助でしょうか。やっています。
二、高校の同窓会(東京支部)も同じ
ですが、もう一つかわりばえしませんが、
同窓会の運営は平凡でしかあり得ないの
でしょうか。何か新しい方法もあるのだ
は、と考えはしますが、実際問題となる
と何もアイデアは浮びません。
三、東京での同窓生の連絡はゼロです。
大阪で二人だけの淋しいものです。

第二十二回 峯 政敏

学校で学んだものは概ね空になりまし
たが、資本主義経済社会の鉄則だけは身
をもつて知らされています。
青春の血をたぎらせ、学生運動に参加

第三回 法 貴道礼

一、若葉の季節がいつの間にか青葉の
頃となりました。同窓の皆様には日夜各
界にご精励のことと心よりお喜び申しあ
げます。私も、一昨年、大商大附属高
校を停年退職して、目下園芸に親しんで
おります。
二、卒業してより幾星霜、よくこま
で来つるものかな、と感無量。おもえば
恩師の、また、旧友のご他界もなされた方
方の多いこと。一度同窓会の主催にて、
これらの方々の慰霊祭をなされてはいか
がなものでしょうか。
三、私等三回卒業生は、毎年二回集い
の会を持ってあります。一回目は、私の
親友である藤本孝次君宅を煩わして新年
宴会を、二回目は、六月頃二宮君、世良
君、北田君等々のお世話によつて学生時
代にかえり、デートのような気分になつ
て一泊旅行にてかかます。
四、同窓生の皆さん。どうか健康に留
意していつまでも若々しく、ともに母校
の益々の発展を祈らうではありませんか。
健康!健康、健康にまさるものなし。

第五回 山田 宗男

今回で第二回目の投稿になります。第
一回目は北海道に在勤中と存じます。日
頃はご無沙汰いたし申訳ありません。澱
江へ毎朝楽しみに拝見。母校のご発展を
うれしく存じます。今後のご発展のため
り。
過。その間、黒正校長をはじめ恩師の先
生方の訃報に接し、誠に残念なり。上阪
の機会少なく、同窓会誌「澱江」および
同窓会開催の案内をみつつ、遙か遠のき
し思い出を懐かしむ今日この頃。
貴誌のますますのご発展を祈るや切な

第十三回 小林 紀子

創刊以来の「澱江」が十三冊。本棚に
並んでいます。母校の様子を知る唯一の
ものであり、毎回有難く、味わい深く読
ませていただいております。編集関係の
皆様方に感謝申し上げております。
十三回同窓会に、「ひとみ会」という名
前がつきました。私どもも半世紀生きて
きたわけですが、戦中、戦後を経てきた
私達は密度の高い歳月を送ったと思いま
す。これからも充実した毎日を送りたい
と願っておりますが、柔軟な考え方をい
つまでも保ち続けるといふことは、かな
りしんどいことだと思ひます。年に一度
の「ひとみ会」に参加し、お互いに励ま
しあい、高めあつていきたいと願つてお
ります。
当地へお出かけの際はぜひお立ち寄り下
さいませ。

第十四回 大塚 園子(旧田尾)

卒業して丁度三十年。久しぶりにアル
バムを取り出し、なつかしさが一杯です。
終戦の年に入出しした私たちは、破れ放題
の窓ガラスを背景に、どんな希望を持っ
ていたのか、屈託のない顔々の記念写
真。今と比べると、信じられないような
時代に、色気にも食ひ気にも薄薄く、学
生生活を十分楽しめたのかしら……?と、
もう遠い日の「記憶」は、色あせた貧し
いものでしかありませんが、三年近く通
った母校は私の中にあり、毎日の新聞の
スポーツ欄に「大経大」の活字を、やは
り探しております。

第十八回 嵯峨 敏枝(旧榎本)

皆様お久しぶりでございます。三十七
年の暮にこちらへ参りましたから、とう
とうここに根がはえてしまったようです。
自分が出不精のせい、あまり同窓の人
達にめぐり逢う機会にも恵まれません、懐か
しい皆様方とも殆んど疎遠のままで、折
にふれてはいかがお過かしらと思ひを

すぐ、あの人がとわかつて、大きな口を
あけて笑い、旦那さまのこきおろし
が、何時の間にかおろけに変わった
りして、まだまだファイト十分。これか
らでっせ」といったたくましさを感じさ
せられました。もしかして、だれかが、
だれかの息子、娘さんの親の立場になる
こともあるかも……と、一人想像して、
ほほえんでおりました。
もう子どもたちも余り手が掛らず(全く
子育てを終えて、オバアチャマの立場
の方もおられます)、これからは毎回参加
して、ご近所の方々とはまた違った楽し
い時を持ちたいと思ひました。
みなさま、万障繰り合せてクラス会に
出席しようではありませんか。

第十六回 高橋 時造

卒業後二十八年、突然、会報に投稿す
る機会を与えられ、面映ゆさとなつかし
さのないませする思いでペンを取りまし
た。

私は、物価や賃金、建設工事費などの
調査研究をしている建設省所管の団体に
勤務していますが、東京勤務のために同
窓の皆さんとは殆んど没交渉で、仕事に
無我夢中で過してきました。それが、四
十九年の暮、西山君からの誘いで東京支
部総会に出席してからこの方、次第に同
窓との絆を強くしてきています。年令の
せいででしょうか、近頃の生活のなかで、
利害を離れた、さわやかな交遊が大変貴
重に感じられるようになりました。今後
同窓会の中でも、総会のほかに、年一回
でも二回でも、何かお互いに啓発し合う
ような横断的な集まりが育つてゆくと非
常に楽しみたいと思ひます。すでにそんな
集まりがあれば本誌でも紹介、勧誘され
ることを期待しています。

第二十回 花宮 両一

澱江への原稿を書く今、卒業後二十数
年を再認識。早いもので、わが子の受験
で心配する今日この頃。
昔はなんと気楽であったことか。講義
が始まろうというのに、サボって梅田へ
走った仲間ともなかなか再会の機会もな

新聞記者三十三年、来年三月に定年を迎えることになる。世に「乞食と先

新聞記者といえはすぐ特ダネは... 特ダネは至難のわざ

警察側でも一目おく敏腕記者だった... 特ダネは至難のわざ

それから約一カ月後、Yは九州へ転勤となった。...

記者もこうした二例り方からの秘密文書を探ろうと、その事務を扱っていた女性へ近づいた。...

前者は京都の金閣寺が炎上した時、支局勤務だった小生は、早朝からたふたふと飛んだ。...

新聞記者 33年

第10回 加藤 正秋

が記事を書きかかっているというかつこうになるわけだ。...

私の同窓生(旧制中学)に鉄筋住宅会社を営んでいるYがいた。...

賢明な同窓生諸君にはここまで書けばよくお判りだろうが、何かこれを... 最近、特に、気に入らないこと。

一、通勤、通学の為の最寄駅に自転車置き場を放置すること。...

二、学生等が反対闘争(成田闘争等)をやる時は素手でやり、ヘルメット、鉄棒、炎火ビン等を持参、集会した時は、...

三、学生等が反対闘争(成田闘争等)をやる時は素手でやり、ヘルメット、鉄棒、炎火ビン等を持参、集会した時は、...

三十一回 丸井盛司(良三) 大阪経済大学ならびに同窓会の発展をおよこび申しあげます。...

三十二回 松岡俊三 石油ショック以来、経済の不況が長びいているが、最近や回復のきざしがみえてきたかにささやかれています。...

三十三回 川村章 私達、兄弟三人は同窓の身なんです、私だけが同窓会等に参加していません。...

三十四回 富井昭博 卒業後十年もたつと、学校とも不本意ながら疎遠になります。校舎の整備も、

し、権力に抵抗した(つもりだった)若さも、理想と現実の違いを見せつけられ、...

第二十三回 土井基次 ますもって同窓会のみならずご発展をお喜びいたします。...

第二十三回 原田春夫 一、公共投資による不況打開にやや明るい兆しが見えていますが、...

第二十六回 松下好孝 先の十三号に小生の拙文を記載させていただきます。...

第三十二回 小林真人 国民総テレビ白痴化。子どもの教育上好ましくないなど、...

第三十三回 小 林 真 人 国民総テレビ白痴化。子どもの教育上好ましくないなど、...

第三十四回 松岡俊三 石油ショック以来、経済の不況が長びいているが、最近や回復のきざしがみえてきたかにささやかれています。...

第三十五回 川村章 私達、兄弟三人は同窓の身なんです、私だけが同窓会等に参加していません。...

第三十六回 富井昭博 卒業後十年もたつと、学校とも不本意ながら疎遠になります。校舎の整備も、

第三十七回 川村章 私達、兄弟三人は同窓の身なんです、私だけが同窓会等に参加していません。...

第三十八回 富井昭博 卒業後十年もたつと、学校とも不本意ながら疎遠になります。校舎の整備も、

第三十九回 川村章 私達、兄弟三人は同窓の身なんです、私だけが同窓会等に参加していません。...

第四十回 富井昭博 卒業後十年もたつと、学校とも不本意ながら疎遠になります。校舎の整備も、

第四十一回 川村章 私達、兄弟三人は同窓の身なんです、私だけが同窓会等に参加していません。...

第四十二回 富井昭博 卒業後十年もたつと、学校とも不本意ながら疎遠になります。校舎の整備も、

第四十三回 川村章 私達、兄弟三人は同窓の身なんです、私だけが同窓会等に参加していません。...

第二十八回 吉原貞夫 澁江編集の皆様、日々ご尽力厚くお礼申し上げます。...

第三十回 中田節弥 東京で、同窓生はじめ諸先輩、後輩に会える機会がありません。...

第三十回 中西 洵 同窓の皆さま、お元気で活躍のことと思います。...

第三十回 中西 洵 同窓の皆さま、お元気で活躍のことと思います。...

第三十回 中西 洵 同窓の皆さま、お元気で活躍のことと思います。...

第三十回 中西 洵 同窓の皆さま、お元気で活躍のことと思います。...

第三十回 中西 洵 同窓の皆さま、お元気で活躍のことと思います。...

第三十回 中西 洵 同窓の皆さま、お元気で活躍のことと思います。...

第三十回 中西 洵 同窓の皆さま、お元気で活躍のことと思います。...

第三十回 中西 洵 同窓の皆さま、お元気で活躍のことと思います。...

第三十回 中西 洵 同窓の皆さま、お元気で活躍のことと思います。...

第三十回 中西 洵 同窓の皆さま、お元気で活躍のことと思います。...

第三十回 中西 洵 同窓の皆さま、お元気で活躍のことと思います。...

第三十回 中西 洵 同窓の皆さま、お元気で活躍のことと思います。...

第三十回 中西 洵 同窓の皆さま、お元気で活躍のことと思います。...

第三十回 中西 洵 同窓の皆さま、お元気で活躍のことと思います。...

在学中には、本館と図書館がようやく完成した頃だったと思います。現在では、関係者のご尽力により、立派な施設が整っていることをうれしく感じている次第です。

さて、私の勤めている神戸市役所では、現在卒業生が、先輩、後輩四十数名、勤務しており、年一回人事異動期に集まり親睦会を催すことが慣例になっています。今年の催しは、四月十八日に、タワーサイド・ホテルで行ないましたが、永年神戸支部長をされ、わが神戸市役所会の会長でもあった長島隆氏（九回卒）の退職記念会ともなったため、全員に近い出席で、たいそう盛況でした。その後は例により、先輩に同行して、夜の三宮を飲み回り、旧交を温め、同窓のきずなを強くし、解散とあいなつた次第。日本人の感覚とお笑いの向もおりでしようが、同期、同郷、職場の集いとともに、社内、団体内での同窓会も、また有意義です。一度、催されてみてはいかが。

このように過去を振り返り、自分を思い浮べると、若い／＼と思いつつも、あれからもう十年たったのかなあ……というのが実感です。従って、自分としては、これからの十年というものを、今以上に充実させ、悔いの残らないように自分なりに過したく思っています。最後に、先輩諸氏、ならびに諸先生方の今後のご健勝を祈りつつ筆をおかせていただきます。

以来、卒業して九年と少し。その間、大学の推薦により某銀行に就職、そして今、市役所に勤務している。

第三十五回 友 金正 雄
小生の近況を伝えさせていただきます。大学時代で思い出すことは、タイプ部、近代経済学（柴山ゼミ）、教職過程選考（市立東商実習）、H組等、断片的でたわいな学生であった。

二十代も終り、今三十代に一歩足を踏み入れ、実社会人として十年選手になろうとしている。全人間的にも地に足がついた人間にならねば、と自分自身強く思う。そしてますます多様化する市民社会に対応する柔軟な能力の養護のためにも、普段からの下向きな勉強の必要性を覚える。また、公務に携さるものとして、自分のものとおきたいと思っている。一つには、頭の中に、民主主義と住民自治の方策の現実生活の極限性を模索している。ただ一言、現在いえることは、常に何事でも精一杯最善をつくしている、と自意識的に思っている。

最後に、今回、編集部より無作為抽出

第三十六回 青 木 孝 爾
今は自分の故郷である下呂温泉で土産物の製造卸しと売店を営んでいます。卒業してはや八年という月日を経過して、大学の四年は何だったのかと振り返ってみますと、多種多様な思考方法、技術知識よりも、実感として心に生きつづけているのは、何でもいいたことが話せる友人あるいはどんな事柄でも聞いてもらえる同輩と、また、あらゆる問題について損得抜きに経験豊富な辛辣を与えてくれ、実社会においても意味に後ろ楯となってくれた先輩を育ててくれたのが、私の学園生活であったような気がします。

最後に、当方面においでの際には、ぜひともお立ち寄り下さるようお願いいたします。

第三十八回 和 木 憲 一
新緑の候、皆様お元気ですか。私はおもしろい生徒諸君に囲まれて、毎日有意義な生活を送っています。教師

第三十九回 秋 山 光 一
今年で卒業してから六年目。勤務先も変わり、四月から、なにやかやと忙しくすこしている毎日です。たしか二、三年前にも、この原稿を書かれたのを覚えていますが、その時は、まだ大学と同窓のことなどを懐しく思い出さることができました。近頃は、ほとんど知人に会うこともなく、同窓会の方も一度もいったことがありません。去るもの日々「うとうと」のたもとどおり、だんだんと記憶がぼやけてくる次第です。

しかし、一方で、職業柄、大学では何となく習っていたことを、今度は、自分が教えるようになって、先生方が簡単にいっておられたことが、いかにむづかしいことであるかを痛感することがしばしばで、その時には、逆によく大学を思い出します。

第三十九回 木 本 喜久雄
この紙面をお借りしまして、友人ならびに諸兄にご挨拶出来すことを心からお礼申しあげます。

私は今、兵庫県の中心部、大阪から福知山線で一時間五十分のところ、篠山ささやまにいます。会社の関係で、篠山前にこの住人となりました。この篠山は、デカンショ節で全国的に知られたところであり、その歌の通り城下町としての風格と、山奥の田舎としての素朴さが渾然一体となっている町であり、近くには立杭焼の窯元もあり、枯れた趣味をお持ちの二仁には誠に良いところといえましょ

原稿をおよせ下さい

「澱江」はわれわれ同窓生の機関誌です。みなさんのご協力を得て今後ますます立派なものにしていきたく存じます。つきましては、みなさま方の原稿を心からのぞんでいます。随想ももちろん結構ですし、短歌、俳句、川柳、なんでも結構です。

遠慮なさらずどしどし編集部までおよせ下さい。

で、今の私の雑感を書く機会を与えられたことに、喜びと懐かしさを感じると同時に、同窓会誌澱江の発展と母校の堅実な発展をお願いして、お礼の言葉とします。

第三十八回 前 原 五 男
××××× 雑 感 ×××××
「母校思う心は、我また思う心」とつねづね努力の銘にしているものである。自分は大経大で学んだという自負があれば、おのずから社会にでも張りが出てこようというものである。それには、大経大がすべてについて他校より優れていなければならないということはいまでもない。

内にあるのは、在学生を中心に、教授陣、理事、外にあるのは、卒業生……。内と外が一体となって、栄えある大経大の歴史を祈念しようではありませんか。

××××× 余 談 ×××××
一昨夏、田中健一教授をささやかな田舎家へお迎えできたことを大変嬉しく思っております。師、年老いて（？）ますますご健康の様子でなによりでした。

同窓生の皆様も、どうか南九州旅行の際にはお立ち寄り下さい。昼間は、海の色、空の高く澄む池田湖。お食事は清涼たる水の唐船岬でのソーメン流しでビール一ぱい……。夕方は、谷間に湧きでる無色透明の心休まる温泉で安らぎを……。

第三十八回 和 木 憲 一
新緑の候、皆様お元気ですか。私はおもしろい生徒諸君に囲まれて、毎日有意義な生活を送っています。教師

第三十九回 秋 山 光 一
今年で卒業してから六年目。勤務先も変わり、四月から、なにやかやと忙しくすこしている毎日です。たしか二、三年前にも、この原稿を書かれたのを覚えていますが、その時は、まだ大学と同窓のことなどを懐しく思い出さることができました。近頃は、ほとんど知人に会うこともなく、同窓会の方も一度もいったことがありません。去るもの日々「うとうと」のたもとどおり、だんだんと記憶がぼやけてくる次第です。

しかし、一方で、職業柄、大学では何となく習っていたことを、今度は、自分が教えるようになって、先生方が簡単にいっておられたことが、いかにむづかしいことであるかを痛感することがしばしばで、その時には、逆によく大学を思い出します。

第三十九回 木 本 喜久雄
この紙面をお借りしまして、友人ならびに諸兄にご挨拶出来すことを心からお礼申しあげます。

私は今、兵庫県の中心部、大阪から福知山線で一時間五十分のところ、篠山ささやまにいます。会社の関係で、篠山前にこの住人となりました。この篠山は、デカンショ節で全国的に知られたところであり、その歌の通り城下町としての風格と、山奥の田舎としての素朴さが渾然一体となっている町であり、近くには立杭焼の窯元もあり、枯れた趣味をお持ちの二仁には誠に良いところといえましょ

第三十四回 柳 井 淳 一
学窓を巣立ち、早や、十年の歳月がたち、顧みれば夢の如く過ぎ去ったような気がします。十年前と申しますと、丁度、山陽特殊製鋼の倒産、あるいは、証券業界の不況と、場合によっては合併も余儀なく行われた世代であったように記憶しております。また、四十年後半にいたっては、物資不足、物価暴騰、石油ショック等、日本列島を大いに揺り動かした諸問題があったのは、まだ、昨日のような気がする次第です。

北欧（スウェーデン）見て歩き

六月三日から二週間、中小企業経営者団体による北欧ツアー研修会に参加して主観的にとらえた、私のスウェーデン見聞の断片です。

ご存知の通りスウェーデンは、北欧の中では一番経済の活発な国として、また、政治、文化、人口、国土などの面でも一番大きいウエイトを占めている国として、さらにまた、今日わが国で云々されているフリーセックス、高福祉制度、老人ホーム、多額納税、世

界一の長寿国、そして個人所得の高い国と、いろいろ話題の多い国としても知られており、私にとっても大変興味のある訪問でもありました。

私が訪れた六月は、一番気候の良い初夏で、森を思わす公園の木々はあくまで青く、所かまわず花が咲きました。乱れているさまは、まるで都市全体が一つの公園の内にもあるような感を受けます。それがスウェーデンの首都、ストックホルムの第一印象です。

界一の長寿国、そして個人所得の高い国と、いろいろ話題の多い国としても知られており、私にとっても大変興味のある訪問でもありました。

私が訪れた六月は、一番気候の良い初夏で、森を思わす公園の木々はあくまで青く、所かまわず花が咲きました。乱れているさまは、まるで都市全体が一つの公園の内にもあるような感を受けます。それがスウェーデンの首都、ストックホルムの第一印象です。

界一の長寿国、そして個人所得の高い国と、いろいろ話題の多い国としても知られており、私にとっても大変興味のある訪問でもありました。

私が訪れた六月は、一番気候の良い初夏で、森を思わす公園の木々はあくまで青く、所かまわず花が咲きました。乱れているさまは、まるで都市全体が一つの公園の内にもあるような感を受けます。それがスウェーデンの首都、ストックホルムの第一印象です。

界一の長寿国、そして個人所得の高い国と、いろいろ話題の多い国としても知られており、私にとっても大変興味のある訪問でもありました。

私が訪れた六月は、一番気候の良い初夏で、森を思わす公園の木々はあくまで青く、所かまわず花が咲きました。乱れているさまは、まるで都市全体が一つの公園の内にもあるような感を受けます。それがスウェーデンの首都、ストックホルムの第一印象です。

界一の長寿国、そして個人所得の高い国と、いろいろ話題の多い国としても知られており、私にとっても大変興味のある訪問でもありました。

私が訪れた六月は、一番気候の良い初夏で、森を思わす公園の木々はあくまで青く、所かまわず花が咲きました。乱れているさまは、まるで都市全体が一つの公園の内にもあるような感を受けます。それがスウェーデンの首都、ストックホルムの第一印象です。

界一の長寿国、そして個人所得の高い国と、いろいろ話題の多い国としても知られており、私にとっても大変興味のある訪問でもありました。

私が訪れた六月は、一番気候の良い初夏で、森を思わす公園の木々はあくまで青く、所かまわず花が咲きました。乱れているさまは、まるで都市全体が一つの公園の内にもあるような感を受けます。それがスウェーデンの首都、ストックホルムの第一印象です。

その他、冬はボタン鍋、夏にはデカンショ祭と四季折々の楽しさがあり、五十年前の日本がそのまま残っております。先輩諸兄には一見の価値ある土地と存じ、一筆啓上しました。また、地域の社会教育の一環として、小林寺拳法篠山北道院を開設しており同志諸君のご来臨を心よりお待ちしております。

第三十九回 寺池 誠

一、労働基準監督官となつて、はや五年が過ぎた。法律と、規則と、通達に取り囲まれて仕事をしています。一つの条文にも、これだけ多くの規則と通達があれば、実際に運用することができないことをはじめて知りました。

二、われわれの仕事で大事な仕事は、労働災害の防止と賃金不払の解決だと思われる。昭和五十一年は、労働災害により、死者は約三千三百人、約百二十万が負傷したり、職業病に約六十一万人である。死亡災害発生、それと現場に駆けつけると、業務上過失致死を捜査した十人前後の警察官、それに対して、労働安全衛生法を捜査しにくる労働基準監督官は二、三人。全国で労働基準監督官は約三千人しかいない。現実はいきびしいものである。

賃金不払については、会社に対し労働者に賃金を支払うよう勧告することができ、裁判所のように差押えなどにより取りたてるという権限がない。昭和五十一年に「賃金の支払の確保等に関する法律」ができたといへ、現実はいきびしく、いうにいわれぬ苦勞をしている。

三、大学時代の友人のうち、寺井明夫君、加藤賢君、梅村友幸君らと年賀状の交換をしている。去年は、寺井明夫君の結婚式に出席させてもらった。ありがたう。

第四十回 北川 孝 司

卒業後、銀行に一年余り勤務しましたが、家庭の都合上、家業の京染店を継ぐことになりました。師親は、生徒に信頼される教師であることとはもちろんのこと、かくの如くありたいと思います（私事で申し訳ないのです）。

「喜ぶものと共に喜び、泣くものと共に泣きなさい。互に思うことを一つにし、高ぶつた思いをいだかず、かえって低いものたちと交わることがよい。自分が知者だと思いがつてはならない。」（聖書、ローマ人への手紙）

これをこれからの私の課題としてがんばろうと思つています。与えられた職はそれぞれありますが、同窓諸兄姉の方々に健康に気をつけてご精進されることを祈つています。

二、同窓会誌「澁江」が発刊される頃になると、待ち遠しい思いがします。同級生の近況はもとより、諸先輩の近況をお聞きすることが何より励みともなり、より一層諸先輩との間に何かいい知れない親密感というか、一体感のようなものを感じながら拝見させていただいてます。

会誌編集にご苦勞されている諸氏に感謝しております。今後ががんばって下さい。

北から南から

三、現在、職業が学活などで「仲間づくりについて」「生徒と話し合うなかで、しばしば「友の大切さ」を考えさせられることがあります。私についていえば、経大に入って「すばらしい仲間」が多く与えられたことにより、入学当初の目的のない暗い気持ちから明るい太陽の光がさす。

▽暑い、長い夏が終り、爽やかな秋風とともに、澁江編集の季節がやってきた。

▽今年も、「北から南から」、「支部だより」など沢山の原稿をいただいた。まことに感謝にたえない次第である。

ことになりました。中小企業論でも対象外となる生業に近い個人商店ですから、大学で習った経営学も、×××管理論もわく外です。半面、営業、庶務、経理が全部一人で受け持つと結構苦勞があります。各職場回り、得意先回り、荷造、発送、帳簿つけと、忙しいときは休日なしの十二時間労働の連続。価値は、生産過程でしか生ぜず、流通過程は、生産過程での分け前である、理論的にはわかっていても、これだけ働いて価値が生じないと考えるとピンと来ないことがあります。しかし、一日一日が充実して過ぎてゆく毎日です。

第四十回 土井 義 輝

卒業して四年になります。現在、金融機関に勤務しており、仕事柄、色々の人と接します。そこで交される会話の内容も、当然、変化に富んでいるわけですが、概して、幅広い知識が要求されます。政治、経済から世間話といったことです。今にして思えば、余り講義には出席しなかつたのですが、大学生生活四年間で得た知識、経験は、現在の仕事に充分役立っています。人間一生勉強といえます。今後とも勉強して一生懸命生きたいと思つています。

第四十回 中村 芳 生

今、資生堂富山販売(株)にて管理課(人事、経理・総務関係)に所属し、多忙な毎日を送っています。そのため、四月二十三日に行なわれた同窓会にも欠席し、残念な思いをしました。次回には、ぜひ出席し、学生時代の思い出に花を咲かせたいと思つています。

第四十回 村上 豊

現在、実家の喫茶店を経営しております。同窓会にも出席したいと思つていますが、

しこんだような学生生活を送ることができ、「すばらしき仲間」にも「経大」にも感謝しています。

学生時代の友情を深め、永く家族ぐるみの交友をめざして、気の合った「すばらしき仲間」が集まり同窓会「ちよんぼ会」を結成し、今や四年目を迎え、旅行や酒宴など会合を重ね、交友を現在も深めています。大阪に大半が在住し、他は、岡山、宮崎、京都に在住しているのので、「さよんば会」の会員の近況や、良さ便りや、悲しい便りを通信によって報告したり、また、会合の出欠やアンケートなどもとっています。活発に会員諸氏も経大マンとして交友を深めつつ、それぞれの職場でがんばっています。

第四十一回 松本 孝 裕

当地区に転勤して、早や十カ月が過ぎようとしていますが、一、二を争う過疎地。もっとも最近ではUターン現象もみられだしてはいるが、これといった産業もない。当地の若者は、高校を卒業し、進学、就職、いずれにせよ県外に出ないと満足いくところはない。そのため、老令人口の比率は、全国でもかなり上位を占めている。大都会に

い。

▽今年同窓会にとつては役員改選をはじめ、規約の改定、さらには総会会場の変更など、大忙しの前半であった。また、支部は支部で支部総会は年々盛会となり、支部活動も充実の一途であるという。まことにご同慶にたえない。

▽また、大学にとつても寄付行為の改定、それにもなう役員の変更、さらには学舎の増築等々、内容の拡充強化が計られている。

なかなか日があきませんので失礼しています。

なお、店名は「白鳥」です。金沢の兼六公園にいられた節は、兼六公園の前ですからぜひお立寄り下さい。

第四十回 山本 普 詳

一、不況が長びいているせいか、地方(この大分県)でも、なかなか仕事が見つからない。学生時代、普通より余計に勉強させられた民法が、どれ程役立っていることか。現在、河川行政を担当しているから、硬式テニス、バドミントンなど、日頃の運動不足解消と、様々な人を知るため活動中ですが、久しく同窓生に会っていない。まだ、いたって自由な身体なので、気軽に声をかけて下さい。最後になりましたが、偶然でしょうけれど、この機会を与えて下さった同窓会編集部の方々に感謝いたします。

第四十一回 松原 誠 二

卒業してもう三年半。不安と希望が表裏一体となった複雑な時期、二年間苦杯をなめた民法、当時の私に影響を与えた経済哲学等が、今とりとめもなく頭に浮かんでくる。人生何が辛いかわからない。学生時代、普通より余計に勉強させられた民法が、どれ程役立っていることか。現在、河川行政を担当しているから、硬式テニス、バドミントンなど、日頃の運動不足解消と、様々な人を知るため活動中ですが、久しく同窓生に会っていない。まだ、いたって自由な身体なので、気軽に声をかけて下さい。最後になりましたが、偶然でしょうけれど、この機会を与えて下さった同窓会編集部の方々に感謝いたします。

第四十一回 松村 和 徳

一、五十年三月卒業後、四月に高槻市立第五中学校教諭(社会科)として赴任し、はや四年目を迎えております。この数年間の多くの経験を通して、私に教師としての生きがいのようなものを感じさせたように思われる昨今です。私の教

任んでいると感じない過疎の実態を考えなければならぬとつくづく思う次第である。

第四十一回 棟 義 博

卒業して、はや三年の月日が流れました。

島根県益田市は人口五万の地方都市です。その中で、私、企業に就職して居ります。今日の経済状況はひじょうにシビアですが、与えられた中でベストを尽くして頑張りたいと思つています。仕事以外の活動も並行して行なっていますが、大きな社会構成の中で、構成員として、一番社会に対し活動できる仕事を大切にしたいと思つております。

第四十二回 朴明栄(大竹章恵)

雑感。時折、母校への懐かしさは、常にゼミの先生とともに溢れてくるものがございます。「去る者は日々に疎し」という諺を引用し、「自分は絶対にそういうことのないようにしたい」という言葉を添えて退職された二年配の言葉を思い出さずにはおられません。就職につき、果立つわが子に「年に一度は挨拶にくるんよ。」と送り出して三年。思いがけなくも訪れる卒業生に顔をほころばせ、ふと懐しき学生の頃を顧みます。そして、私も今年

大学全体の盛り上りは大変なものがある。

▽学舎の増築によって、同窓会ホールも新館四階に面目を一新した。是非お立寄りをいただきました。

▽最後に、今年の総会は、従来のものと趣きを異にして、会場を梅田のレストランパレスに移し、いろいろな趣向もこらされているという。万障おくり合せの上、ご出席を賜りますよう。お待ちする次第である。

経済の国際化時代にふさわしい今後の中小企業のあり方を示す論文
解説および書評
中小企業に関する文献目録
年間購売料¥1,500(〒とも)
バック・ナンバーあり(〒別)
1972年~1974年 1冊200円
1975年~1978年 1冊300円
お申込み先中小企業経営研究所

国際化時代の中小企業の理論と情報
中小企業季報

第 14 号
昭和53年10月20日発行
編集者 山中 良 夫
発行所 大阪経済大学同窓会
大阪市東淀川区大隅通2丁目
電話 (328) 2 4 3 1 ~ 3 番
印刷所 共成社印刷株式会社
大阪市北区中崎西2丁目6-17
電話 大阪 (371) 0 2 5 4 番



大阪経済大学同窓会誌

NO. 14